

V 桑原西稻葉遺跡3～5次(北吉井団地)調査

1 調査の経過と方法

(1) 調査の経緯

愛媛大学宿舍が存在する北吉井団地(図2)は、周知の「桑原遺物包含地(松山市埋蔵文化財包蔵地地図157)」に隣接するものの、包蔵地外にあたる。しかし、周辺での松山市による調査から、遺跡存在の可能性が予想されていたため、1994年度に東長戸他環境整備(駐車場整備・配管設置)工事に際して、埋蔵文化財調査室では立会調査を実施することとした(調査番号:99401)。その結果、包含層は既に削平されていたものの、造構の残存が認められ、周辺が古墳時代後期から古代の集落遺跡の一端であることが明らかとなった。また、1995年度にも1件の立会調査(調査番号:99508)を実施している。

続いて1997年度には、北吉井宿舎屋外排水管改修工事に伴い、掘削工事が行われることとなった。先の調査成果を承けて、埋蔵文化財に対する影響が及ぶと判断され、しかも100mを越える範囲が対象となるため、文化財保護法第57条第1項に基づく発掘届を提出して、事前に全面調査を実施した(調査番号:99710)。細い管路とは言え、北吉井団地のはば全域に調査が及ぶため、3次調査で確認していた遺跡について、その広がりを確認することを目的として調査に臨んだ。

4次調査の際に、調査区に隣接した埋設管からガス漏れがあり、詳細を検査したところ、老朽化したガス管の早急なる交換が促されることとなった。閉地内各家庭にガス供給が行われている現状があり、既設管をそのままに新たなガス管理設に伴う掘削が行われることとなり、埋蔵文化財への対応も必要となった。本来なら、先の排水管改修工事同様の手続きと調査精度が求められるところながら、ガス漏れの修繕という緊急性と、調査・工事中の安全確保といった点から、埋蔵文化財調査室・施設部・施工業者で協議の上、また松山市教育委員会からの指導も受けながら、今回に限り緊急避難的に立会形式で調査を行うこととした(調査番号:99711)。

なお、報告書刊行に際して松山市教育委員会との協

議により、北吉井団地北西約100mの地点の遺跡名「桑原西稻葉遺跡」を、愛媛大学北吉井団地にも適用することとし、99508調査を除いて、調査順に3次・4次・5次調査と呼称することとした。

(2) 調査区割の設定と呼称(図121)

北吉井団地については、柳味団地のような平面直角座標系IV系に基づく基準点は設置しておらず、いずれも既存建物の外壁や地境を基準とした平板測量によって、トレントの位置を特定している。そのため方位は、図121の真北を除いて、すべて磁北を表している。また標高についても、松山市作成都市計画図(縮尺1/500)に示された南側道路面標高を基準としている。なお、トレントが長距離に及んだ4次調査については、トレント配置に関する仮座標こそ設定しているが、既存建物の外壁や地境との関係は平板測量に基づいている。

3次調査では、宿舎1号棟と2号棟の間の東西に長い調査区をI区、2号棟南をII区とした。

4次調査では、まず団地北西隅に基準点0を仮に設置し、これを基準に各地区の位置関係を把握した。先の年報では、管路の枝毎に記述を進めたが、改めて以下のよう区割呼称に変更する。I区は2号棟南管路部分とした箇所で、主管の南端より東側すべてを指す。II区は主管路南(2号棟西)部分にあたり、III区は主管路中央(駐車場西)部分である。IV区は2号棟北管路部分、V区は1号棟南管路部分、そしてVI区が主管路北(1号棟西)部分、VII区が1号棟北主管路部分である。

5次調査では、ガス管漏れの改修という緊急性もあって、4次調査II・III区の西側に調査区は隣接し、平板測量により4次調査の基準点を特定している。

(3) 調査の経過

桑原西稻葉遺跡3次調査は、1994年5月10日から13日、さらに16・18日に、立会形式で行った。

桑原西稻葉遺跡4次調査は、1997年10月8日から31日に及ぶ。団地内では、一般家庭生活が行われており、その障害とならないよう、南側から順次調査を行い、調査終了部分毎に管路埋設工事が行われた。なお、調査終了後も、屋外排水管改修工事に伴う予測していなかった箇所での包含層検出等から、11月6・12・13・18日、さらには12月1日に追加調査を行った。

桑原西稻葉遺跡5次調査は、ガス漏れという緊急性から、1997年11月12～14日の短期間で、かつ立会形式で調査を行った。なお、18日にも追加補足調査を行っている。

(4) 遺構・遺物の登録番号と種別の表示

遺構はいずれも、IV層上面での検出である。遺構番号は、各調査次毎に1から付している。3次調査では

I区で1～11、II区で21～28、4次調査では欠番を挟みながら1～368、5次調査で1～31に及ぶ。遺構の種別は、SC：竪穴式住居、SD：溝、SK：土壤、SP：柱穴・小穴、SA：横列、SX：その他の略号を遺構番号に冠して表す。

出土遺物については、各調査次毎にRを冠した番号を遺物取上番号として与え、接合他の検討を行った。そして、報告書に記載すべき記録可能な個体を選別する時点で、1個体（実測図単位）に対して、改めて4桁のRを冠した遺物実測番号を付し、別色で追加注記している。出土遺物観察表の実測番号がこれに当たる。3次調査ではR1001～1094、4次調査ではR1001～1077、5次調査ではR1001～1017を数える。

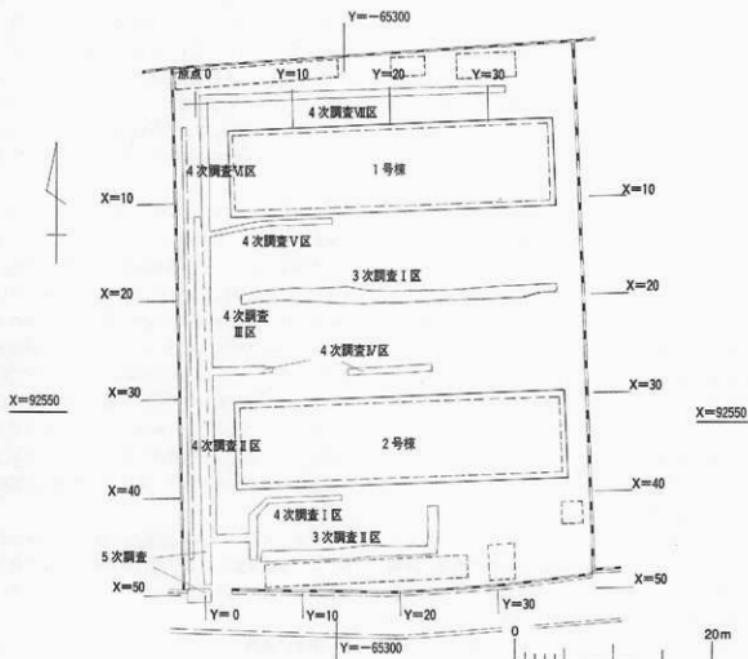


図121 調査区割図（縮尺1/500）

2 調査の概要 (図121)

(1) 3次調査の概要

調査地点 松山市桑原2丁目9番8号
愛媛大学北吉井団地

調査番号 99401
調査面積 54.5m²
調査期間 1994年5月10日~13日・16日・18日
調査担当 田崎博之
調査補助 宮崎直栄

3次調査は、北吉井団地における初めての調査であり、遺跡の実態把握を目的として立会形式で実施した。調査区は2ヶ所。基本層序は構築団地に共通し、上位からI~V層である(I-2参照)。ただし、III層は部分的にしか残存せず、遺構はIV層上面で検出した。確認した遺構は、以下の通りである。

溝 5条 (SD-21~24・28)

柱穴・小穴 13基

I区: 10基 (SP-1・3~11)

II区: 3基 (SP-25~27)

出土遺物の大半は溝出土で、5~7世紀の須恵器・土師器である。この間、時期を違えながら、溝の掘削・使用・埋没が繰り返されていたことが確認できる。

(2) 4次調査の概要

調査地点 松山市桑原2丁目9番8号

愛媛大学北吉井団地
調査番号 99710
調査面積 100.4m²
調査期間 1997年10月8日~31日、
11月6・12・13・18日、12月1日
調査担当 吉田 広・三吉秀充

構築団地共通の基本層序を確認できたが、III層の広がりは団地南部の一部のみで、遺構はIV層上面での検出である。検出した遺構は、以下の通りである。

竪穴式住居 19棟

(SC-51・53~55・57・58・61・131・204・

270・283~285・362~367)

摺立柱建物 2棟 (SB-361・368)

溝 5条

(SD-1・41・181・273・286)

土壙 8基

(SK-23・52・59・103・189・205・216・272)

柵列 3基 (SA-351・352・353)

柱穴・小穴 315基

これらのほとんどは6~7世紀代の遺構で、溝や竪穴式住居の埋土中からは、須恵器・土師器が多く出土している。特に団地南西部のII区においては、竪穴式住居他 (SC-51・SK-52・SC-53~55・57・58・SX-62・SC-61) が重複する。なおこの他に、10世紀代の遺物もわずかながら存在し、埋土が黒褐色シルトを主体とする柱穴 (SP-310) と柵列3列 (SA-351・352・353) が、この時期の遺構である。

(3) 5次調査の概要

調査地点 松山市桑原2丁目9番8号

愛媛大学北吉井団地

調査番号 99711

調査面積 32m²

調査期間 1997年11月12~14・18日

調査担当 吉田 広・三吉秀充

5次調査は、4次調査検出遺構の広がりを再確認しながら調査にあたったが、狭い管路幅のみの調査であったことと、ガス漏れという事態に対する限られた時間内での調査のため、4・5次調査の対応関係がなお判然としない部分がある。検出した遺構は、以下の通りである。

竪穴式住居 7棟 (SC-8・14・16~19・21)

柱穴・小穴 24基

(SP-1~7・9~13・15・20・22~31)

4次調査II区隣接部に遺構が集中し、6~7世紀の土師器・須恵器が出土し、鶴の羽口も確認されている。なお、これらに混じって10世紀代の遺物もある。

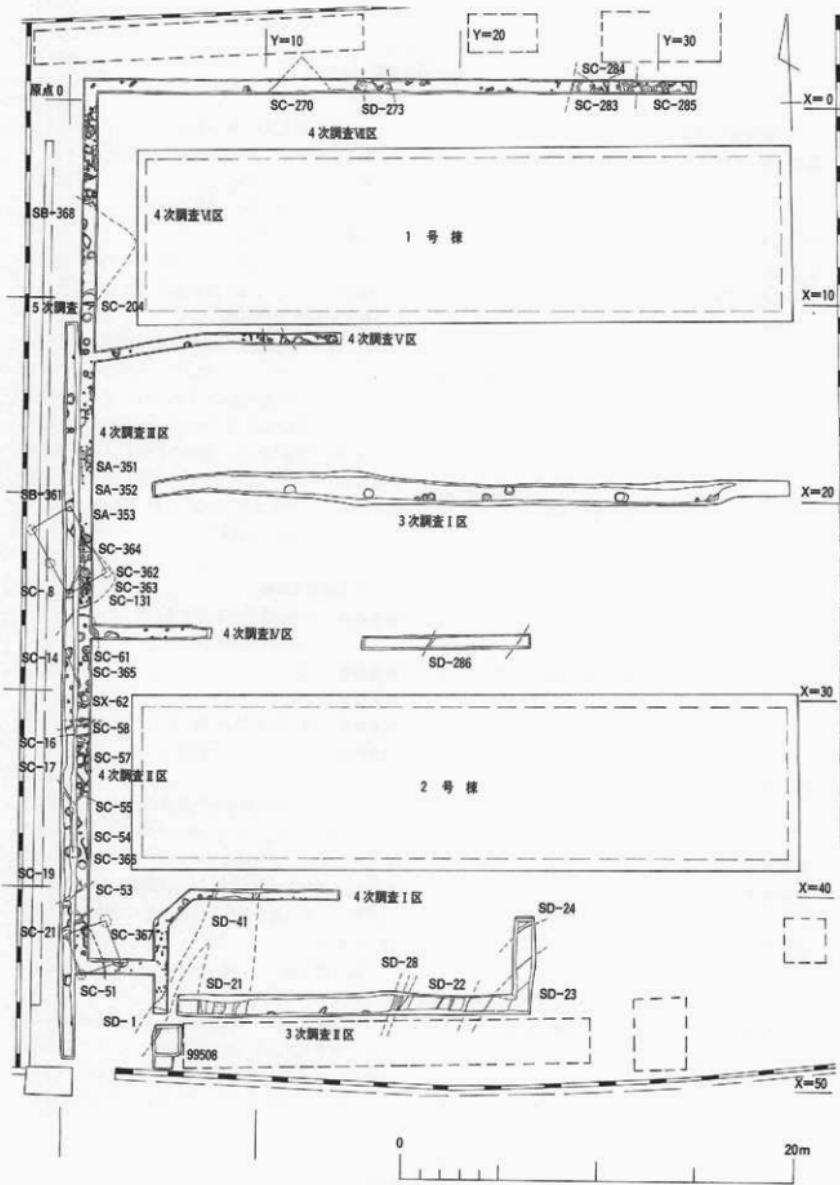


図122 造構配位置図 (縮尺 1/250)

3 調査の記録

i 3次調査

排水管が埋設される宿舎建物に挟まれた部分をI区、敷地南側の自転車置場に沿った部分をII区とした。両区とも、III層は部分的にしか残存せず、IV層上面で遺構を確認した。

(1) I区(図123、図版35-1)

I区は、東西約30m・幅1.2m前後の調査区である。I区では部分的に残るIII層の下、IV層上面で、柱穴を含む小穴11基を検出し、遺物も出土した(図124)。

SP-1は溝または土壤状の遺構で、黒色～黒褐色粘質シルトの埋土をもち、小指先大の炭化物、土器の細片が出土した。図化できた遺物は2点(1・3)。1は須恵器蓋の天井部。3は須恵器の高坏脚部。脚柱部には2条の沈線を挟んで、上下に長方形透かしが施される。6世紀後半～7世紀初頭。

SP-4～6・10では、杭もしくは柱の痕跡を確認している。SP-3・7～9・11・12は小穴で、SP-11・12の埋土は黒色～黒褐色である(図版36-1～4)。これら小穴出土遺物で図化できたのは3点。2はSP-9出土の須恵器坏。受け部に蓋の口縁端部の一部が剥離して付着する。4はSP-4出土の須恵器の壺肩部片。外面上には繩文、内面には青海波文が施される。6世紀後半～7世紀初頭。5はSP-6出土の5世紀代の土師器の高坏脚柱部で、内面に粘土の紋り痕が顕著に見られる。図化できなかったが、SP-3・8・10・11からは土師器細片、SP-5から弥生土器・土師器の細片が出土している。遺物の出土状況から柱穴のほとんどは、古墳時代後期と考えられる。なお、III層出土遺物として、6の土師器の壺口縁部がある。5世紀末～6世紀初頭。

(2) II区(図125・126、図版35-2・3)

II区は、幅約1.2m、東西約18mで北に5m延びるL字状の調査区である。II区で検出した遺構は、溝5条と、柱穴・小穴3基である。

① SD-21(図125、図版36-5)

SD-21は、検出面で幅約2.5m・深さ約1mの逆台形状のしっかりした溝である。埋土上部はシルトで、

地山層であるにぶい黄褐色粘質シルトの塊が混じる。下底付近には流水によると考えられる縞状の砂礫層が堆積している。埋土の中でも、1～7・9・12・14層は、砂礫を多く含む砂質シルトで、IV層の黄褐色粘質シルトのブロックが混じる。また、土層の堆積状態から2度ほどの掘り直しが確認できる。

出土遺物は、基本的に上層・中層・下層に分けて取り上げたが、上層が7層以上、中層が8～10層、下層が11層以下にほぼ相当する。以下、図示できた出土遺物について解説する(図127・128、図版42-1～4)。

上層出土遺物で図化できたものはない。1～18は中層出土。1～4は須恵器蓋、5～9は須恵器坏。6世紀後半～7世紀初頭。10は須恵器の高坏部～脚部片で、短脚と推測される。7世紀代。11は須恵器の高坏脚部で脚部に向かって大きく「ハ」の字状に開く。12は須恵器の鉢口縁部。口縁部と胴部に沈線文が1条施される。7世紀後半。13は短頸壺の胴部片で、胴上位が強く張る。外面にはカキメ調整が施される。14は須恵器鉢の底部片。内外面とも指ナデを主体に成形し、接合痕が顕著に残る。内面は胴部がナデ、底部は指押さえ後ナデ。15は上師器の壺底部。内面にナデ、底部は指押さえが見られる。16は土師器高坏の脚部で端部は面をなす。17は土師器の壺口縁部で、内湾しながら立ち上がり、端部は丸く收める。焼成はやや軟質。5世紀末～6世紀初頭。18は土師器の壺肩部で、外面上には横方向のハケメが施された後、ヘラ状工具による「ノ」の字状の列点文がめぐる。5世紀前半。

19～23はSD-21西半部一部搅乱混じり出土として取り上げたもので、一部搅乱を含む中層以上出土に相当する。19・20は須恵器坏蓋。21は須恵器の壺で6世紀中頃。22は須恵器の壺底部。23は土師器の壺口縁部。

24～37はSD-21下層出土。24～35は須恵器。24は壺蓋。25・26は壺身。6世紀後半～7世紀初頭。27～29は壺身底部。30・31は高坏の口縁部。30は大型品で、口縁部は緩やかに外反し、先端付近で強く外反する。壺部下半に沈線が1条施される。5世紀後半。31は直線的に外傾し、口縁先端は先細りする。口縁部と底部の境に沈線文が1条施される。5世紀後半。32・33は

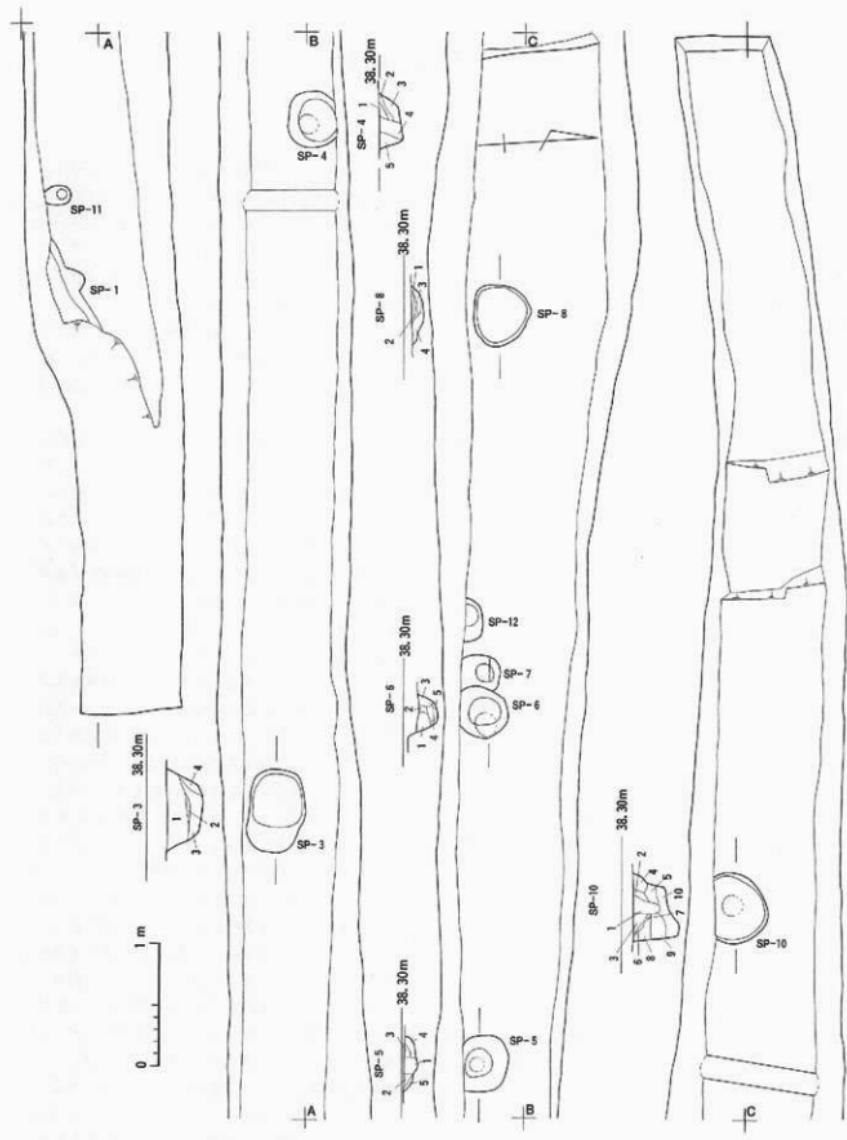


図123 3次調査Ⅰ区実測図（縮尺1/40）

図123 土層記号

SP-3

- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。褐色 (10YR4/4) 粘質シルトを多く含む。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。1層と同じだが、炭化物を少量含む。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。褐色 (7.5YR4/3) 粘質シルトが一部薄いレンズ状ブロックに混じる。1cmの炭化物片が少量出土。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。褐色 (10YR4/4) 粘質シルトが多く混じる。土器細片出土。

SP-4

- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。暗褐色 (7.5YR3/4) 粘質シルトが少量混じる。
- 1層同じ。
- 黒褐色 (7.5YR3/1) 粘質シルト。にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルトの幅2cm程のレンズ状ブロックが少量混じる。炭化物の細片が少量出土。
- 黄褐色 (10YR4/3) シルト。暗褐色 (10YR3/3) シルトの小塊が少量混じる。柱痕。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。黒褐色 (10YR3/1) の粘質シルトが多く混ざり込む。

SP-5

- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。暗褐色 (7.5YR3/4) 粘質シルトを少量含む。柱痕。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。暗褐色 (7.5YR3/3) 粘質シルトの小塊を少量含む。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。暗褐色 (7.5YR3/3) 粘質シルトの小指先大の塊が多い。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。暗褐色 (7.5YR3/4) 粘質シルトを少量含む。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。暗褐色 (7.5YR3/4) 粘質シルトの小塊が多い。

SP-6

- 全体に1cmの炭化物を極少量含む。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。黒褐色 (10YR3/2) シルトの小塊を少量含む。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。黒褐色 (10YR3/2) シルトの1cm幅の薄いレンズ状ブロックが多く混じる。土器細片出土。

ルトの小指先大の塊を少量含む。

- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。暗褐色 (10YR3/3) シルトを少量含む。土器片出土。柱痕。
- にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルトに黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルトの小塊を少量含む。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルトが流れ込む。

SP-7 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。黒褐色 (10YR3/2) 粘質シルトの1cm幅程の薄いレンズ状ブロックを多く含む。土器細片出土。

SP-8 土器の細片・炭化物細片がまばらに出土。

- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。にぶい黄褐色 (10YR5/3) シルトの薄いレンズ状ブロックを多く含む。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルトのレンズ状ブロックが少量混じる。
- 黒色 (7.5YR2/1) 粘質シルト。にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルトの小塊が少量混じる。

SP-10 まんべんなく1cmの炭化物片を少量含む。

- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルトに、にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルトの小指先大の丸い塊が混じる。土器細片出土。柱痕。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。土器片出土。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルトで、にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルトの小指先大の丸い塊が少量混じる。
- 褐色 (10YR4/4) 砂質シルト。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。黄褐色 (7.5YR4/3) 粘質シルトの塊が混じる。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。黄褐色 (7.5YR4/3) 粘質シルトの塊が混じる。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルトの2cmの塊を少量含む。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂質シルトの1cmのレンズ状ブロックを少量含む。

10 黒色 (7.5YR1.7/1) 粘質シルト。

高坏脚部。32は長脚2段で2方向に長方形透かしが施される。6世紀後半~7世紀初頭。33は筒状の脚部で、透かしはない。34は小型壺口縁部で、ラッパ状に大きく外反する。35は横瓶の胴部。外面は、繩縫文タタキが施される。36・37は土師器壺の口縁部。5世紀末~6世紀初頭。

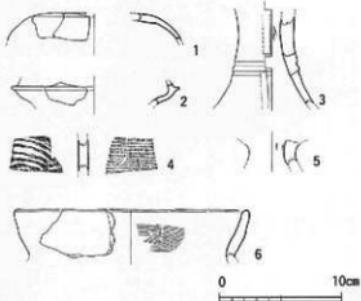


図124 3次調査I区出土遺物実測図（縮尺1/4）

38~45はSD-21溝底砂質土層出土として取り上げたもので、下層出土に相当する。38~44は須恵器。38は高坏の蓋。39は壺蓋で6世紀後半。40~43は坏身。40は口縁部が長く、直線的に内傾する。41~43は口縁部が短く、6世紀後半~7世紀初頭。44は高坏の脚部。長脚2段、2方向長方形透かしと考えられる。6世紀中頃~後半。45は土師器坏の完形品。全体的に器壁が厚い。底部は平底で、口縁端部は丸く收める。

46~50は11層出土。46は須恵器の蓋で、6世紀後半~7世紀初頭。47~48は須恵器の坏身底部。49は土師器鉢の口縁部。口縁部は水平近くまで強く屈曲し、胴は張らずにそのまま底部に至ると推測される。口縁端部は横ナデにより、面をなす。胴部外面は粗い縱方向のハケメ、内面にはケズリ後横ナデが施される。古墳時代前期。50は砂岩製の砥石。平面は台形状を呈し、4面とも砥面として利用している。

以上の遺物の検討から、下層は、7世紀初頭以降の遺物を含んでいない。中層は、10の高坏、12の鉢が最も新しい時期を示し、7世紀後半前後。上層からは時期決定可能な遺物は見られない。先記したように、SD

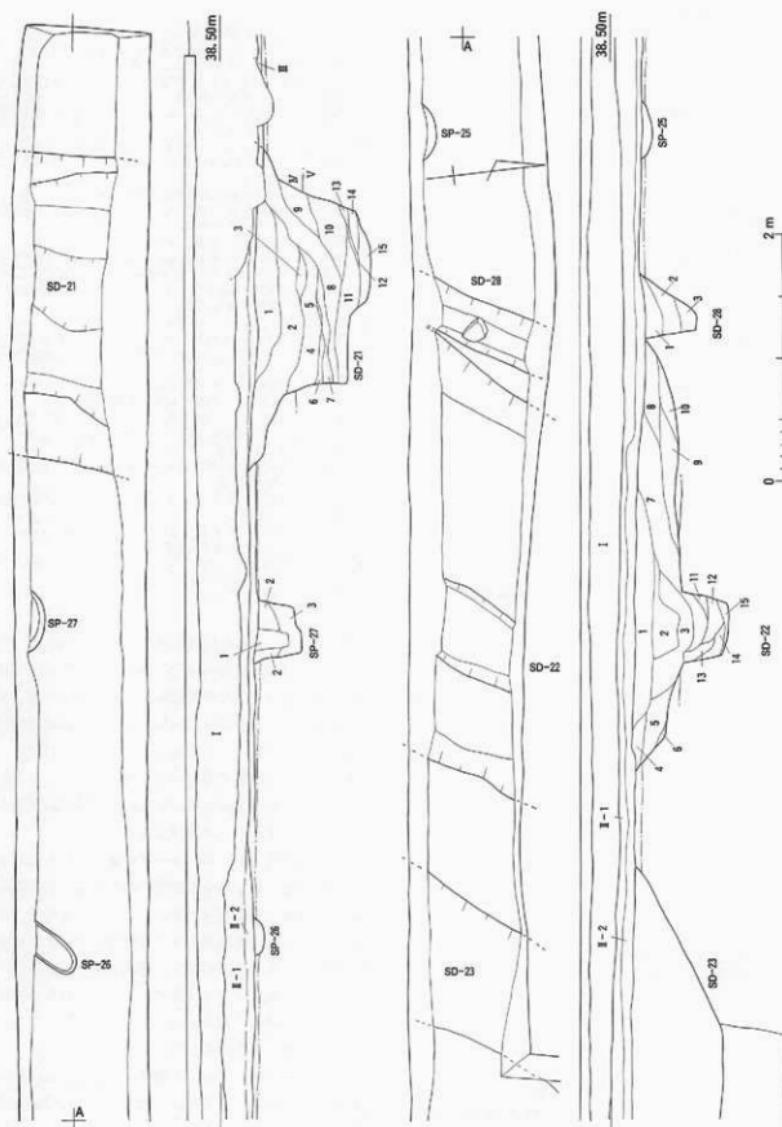


図125 3次調査Ⅱ区実測図(1) (縮尺1/40)

図125 土層記記

SD-21

- 黒褐色 (10YR2/2) シルト。黄褐色 (10YR5/6) シルトの小指大の丸い、2~3mm程の塊を極少量含む。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) シルト。1層と比べてやや砂っぽい。にぶい黄褐色 (10YR5/4) の小塊をまばらに含む。2~3mmの塊が全体に極少量混じる。土器片出土。
- 黒色 (7.5YR2/1) シルト。黄褐色 (10YR5/6) の小塊を極少量含む。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) シルト。黄褐色 (5YR3/2) の2cmの丸い塊を極少量含む。土器片出土。
- 暗褐色 (7.5YR3/3) 粘質シルト。金体に黃色味が強い。
- 暗褐色 (7.5YR3/3) 粘質シルト。黒色 (7.5YR1.7/1) が少し混ざり込む。
- 黒色 (7.5YR1.7/1) シルト。暗褐色 (7.5YR3/3) の薄いレンズ状ブロックを含む。
- 黒色 (7.5YR2/1) シルト。褐色 (10YR4/4) シルト質土の小塊を少量含む。粘質やや強い。炭化物細片がまばらに出土。多くの土器片出土。
- 黒色 (7.5YR2/1) シルト。褐色 (10YR4/4) シルトの小指大の丸い塊を極少量含む。炭化物細片がまばらに出土。土器片出土。
- 黒色 (7.5YR2/1) 砂質シルト。褐色 (10YR4/6) の5mmの粒状ブロックを含む。土器片・炭化物片がまばらに混じる。
- 黒褐色 (10YR2/2) 砂砾。下部ほど砂質が強く、黒色 (7.5YR1.7/1) の薄いレンズ状ブロックを極少量含む。砾石、土器・炭化物片が極少量出土。
- 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト。5cm幅の薄いレンズ状ブロックを極少量含む。下部から1cmの角張った炭化物の塊が少量出土。
- にぶい黄褐色 (10YR4/3) 細砂質土。
- 黒褐色 (10YR2/2) 細砂質土。
- 暗褐色 (10YR3/3) 砂砾。にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルトの1~2cm幅の薄いレンズ状ブロックが多く混じる。

SP-27

- 黒色 (7.5YR1.7/1) シルト。暗褐色 (10YR3/3) シルトの1~5cmの塊が多く混じる。柱状。

-21は土層の堆積状態から2度ほどの掘り直しが確認できている。土層と出土遺物との対応関係を見てみると、下層出土遺物の下限の時期から、7世紀初頭前後までに当初の溝が埋没したと考えられる。最初の溝の掘り直しおよび埋没時期は、中層出土遺物に対応し、7世紀後半と考えられる。2回目の掘り直しと埋没はそれ以降となる。

(2) SD-22 (図125、図版36-6)

SD-22は、幅約3m・深さ約30cmの浅い上段と、東寄りに偏した位置の幅約50cm・深さ約40cmの下段からなる。埋土は暗褐色から黒褐色の砂質シルトを主体とし、下段の掘りこみや埋土の堆積状況から、少なくとも2回の掘り直しが行われている。

出土遺物は、基本的に上層・中層・下層に分けて取り上げたが、上層が1・2層、中層が3層、下層が4層以下にはほぼ相当する。以下、図示できた出土遺物について解説する（図129、図版42-5）。

1~4は上層出土。1・2は土師器高坏の口縁部。

1は内面に横方向のハケメが施される。3は土師器高

- 黒色 (7.5YR1.7/1) シルト。黒褐色 (7.5YR3/2) シルトが多い混ざり込み、明黄褐色の小塊がまばらに混じる。
- 黒色 (7.5YR2/1) シルト。明黄褐色 (10YR6/6) シルトの小塊が散漫に、下部には10cmの塊がいくつか混じる。

SD-28

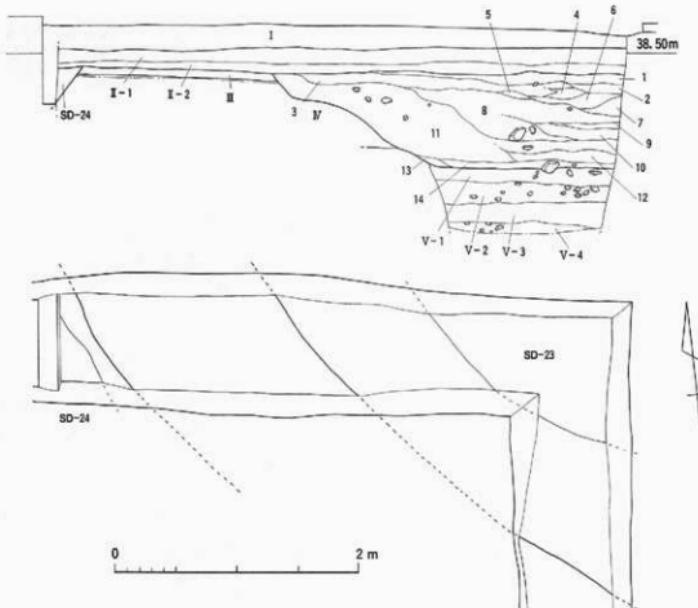
- 黒色 (7.5YR2/1) シルト。土面上にはオリーブ褐色 (2.5Y4/3) の小塊がまばらに混じる。
- 黒色 (7.5YR2/1) シルト。土器片出土。
- 黒色 (7.5YR2/1) シルト。黄褐色 (10YR5/6) の小塊や明黄褐色 (10YR6/6) の3cmの塊が少量混じる。
- SD-29
- 黒色 (7.5YR2/2) 砂質シルト。黄褐色 (10YR5/6) の小塊がまばらに混じる。
- 黒褐色 (10YR2/1) 砂質シルト。にぶい黄褐色 (10YR4/3) の3cmの指円形の塊が極少量混じる。
- 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト。明黄褐色 (10YR6/6) の小塊が極少量混じる。
- 黒褐色 (10YR2/2) シルト。
- 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト。黄褐色 (10YR5/6) の薄いレンズ状ブロックが多く混じる。
- にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト。
- 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト。明黄褐色 (10YR6/6) の2cmの塊が混じる。
- 黒褐色 (7.5YR2/1) 砂質シルト。黄褐色 (10YR5/6) の5cmの塊が混じる。
- 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト。明黄褐色 (10YR6/6) の2cmの指円形の塊が極少量混じる。
- 黒褐色 (7.5YR2/2) 砂質シルト。黄褐色 (10YR5/6) シルトの10cmの塊が混じる。
- 黒褐色 (7.5YR2/2) シルト。
- 黒褐色 (7.5YR2/2) 砂質シルト。明黄褐色 (10YR6/6) の小塊がまばらに混じる。
- 黒褐色 (10YR2/2) シルト。
- 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト。黄褐色 (10YR5/6) の2cmの丸い塊が極少量混じる。
- にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト。

环节の脚部。4は土師器壺の肩部片。5~6は中層出土。5は土師器高坏の坏部で、口縁端部がわずかに屈曲する。6は土師器壺の肩部片で、器壁が厚く大型品で削が強く張ると考えられる。7~14は下層出土。7~11は土師器高坏。7は口縁部、8は坏底部。9~10は段をもつタイプの坏部。9は大きく開き浅い。11は高坏の脚部部で、裾部の屈曲は明瞭で水平方向に開く。12は小型丸底壺の脚部片。13は土師器壺の頸部で、屈曲が強く、外側面に明瞭な稜が見られる。14は土師器鉢の底部。丸底で外面にはタタキが施される。15はSD-22南壁清掃中出土の小型丸底壺の脚部片である。16は上層出土の鉄器。釘の可能性を考えられる³⁹⁾。

下層出土遺物は、5世紀中頃に位置づけられる。また、上層・中層出土遺物は5世紀後半を下らないことから、SD-22は5世紀中頃後に掘削され、度数の埋没・掘り直しを経て、5世紀後半に完全に埋没したと考えられる。

(3) SD-23 (図126、図版36-7)

SD-23はII区の屈曲部で検出した溝。南壁で約2.5



SD-23

- 1 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト。かなり砂塵を含む。
- 2 黒色 (7.5YR2/1) 砂質シルト。暗褐色 (10YR3/3) シルトのレンズ状ブロックや、褐色 (10YR4/4) シルトの小塊が少量混じる。
- 3 黒色 (7.5YR2/1) 砂質シルト。
- 4 黒褐色 (10YR2/2) 砂塵混じりシルト。にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルトの小塊が少量混じる。
- 5 黑褐色 (10YR2/2) 砂質土。
- 6 黒色 (7.5YR2/1) シルト。黒褐色 (10YR2/2) 粘質シルトや褐色 (10YR4/4) シルトの 2 cm の塊が極少量混じる。
- 7 黒褐色 (7.5YR1.7/1) シルト。右斜め上方から、厚さ 1 cm、長さ 5 cm 程度のにぶい黄褐色 (10YR4/2) ブロックが混じる。
- 8 黒色 (7.5YR2/1) 砂質土。薄いレンズ状の微細・細砂が
- 9 黒色 (7.5YR2/1) 砂質シルト。やや砂質が強く、褐色 (7.5YR4/6) の小塊が極少量混じる。
- 10 黑褐色 (10YR2/2) シルト。微細・細砂が縞状の互層となって堆積。褐色 (7.5YR4/4) の極小さい塊がまばらに混じる。
- 11 黑褐色 (10YR1.7/1) 砂質シルト。にぶい黄褐色 (10YR5/4) シルトの 2 ~ 10 cm の塊が極少量混じる。土器出土。
- 12 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルト。黄褐色粘質シルトの親指大の塊が混じる。
- 13 黑褐色 (7.5YR3/2) 砂質シルト。角張った炭化物片を少量含む。
- 14 黑褐色 (7.5YR3/1) 砂質土。微細・細砂が縞状に互層堆積。

図126 3次調査II区実測図(2) (縮尺1/40)

m、東壁で約3mにわたって検出でき、深さ約90cmの
緩やかな逆台形状を呈する。全体に砂質が強い埋土を
もち、いくつかの土層では、流水を物語る砂層が縞状
に互層状態で堆積している。

出土遺物は、やはり上層・中層・下層に分けて取り
上げているが、上層が10層以上、中層が11・12層、下
層13・14層にはほぼ相当する。以下、図示できた出土遺
物について解説する（図130、図版42-6、43-1）。

1~4は須恵器。1は12層出土の蓋。2は中~下層

出土の蓋。3は溝底砂層出土の蓋。4は3層出土の蓋
である。1・2は6世紀後半、3は6世紀中頃~後半。
5~12は土器師。5・6は南壁洗掃中暗茶褐色粘質土
出土の高坏の脚部。5は筒状をなし中実。6は脚柱部
のみ中実で、脚据が「ハ」の字状に大きく開く。7は
溝底砂層上部の土層から出土した高坏脚部。8は上層
出土の鉢の口縁部で、直口するボール状の形態。9・
10はSD-23下半部出土の壺口縁部である。口縁部が強
く屈曲し、胴部もやや張ると考えられる。9は胴部外

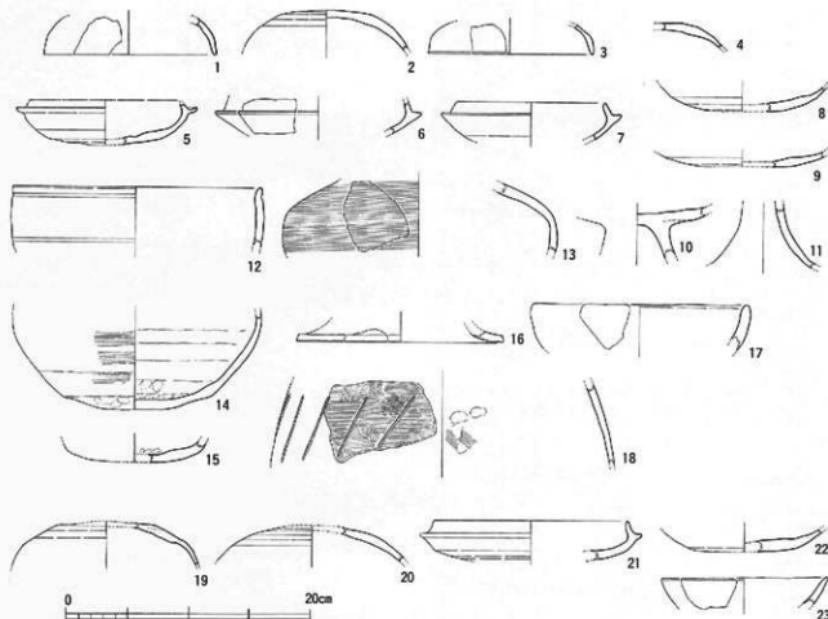


図127 3次調査SD-21出土遺物実測図(1) (縮尺1/4)

面に横方向の粗いハケが施される。11・12は中～下層出土。11は壺の口縁部で、縁やかに外反する。12は把手付箇で、把手が剥離した痕跡が残る。また、外面の一部は赤変した部分がある。13は上層出土の砂岩製の台石である。本来は平面円形と考えられる。中央部付近に黒変部が存在し、敲打痕が集中する。

5~10のように4・5世紀に遡る遺物があるものの、溝底砂層出土の3や中～下層出土の12などから6世紀中葉前後に溝が機能していたと考えられる。また、7世紀代に下る資料は認められないことから、6世紀後半前に溝としての機能を失ったと考えられる。

④ SD-24(図126)

SD-24は、II区北端でわずかに見つかった溝状遺構。SD-22と同一の溝の可能性が高い。出土遺物は弥生土器・土師器の細片である。

⑤ SD-28(図125、図版36-6)

SD-28は、SD-22の西脇に接するような位置で検出

した溝。幅約40cm・深さ50cm弱のV字形に近い逆台形状の断面を呈する。埋土はシルト質土で、流水を示す砂層等は検出されなかった。出土遺物はない。

⑥ 柱穴・小穴

II区では以上の溝の他に、SP-25~27を検出している。SP-27は立柱痕跡は平面で検出できず、土層断面で確認した。SP-25・26は黒色～黒褐色シルトの埋土をもつ。いずれも出土遺物はない。

⑦ III層出土遺物(図131)

III層出土遺物から図化できたのは古墳時代の7点。2がII区西半部、他は東半部出土である。1は須恵器の蓋口縁部で、焼成はやや軟質。6世紀後半。2は須恵器高坏の脚部で、脚端部は回転ナデによりくぼみ、内外面には薄い自然釉が認められる。3・4は土師器高坏の口縁部。4は明瞭な段をもつ。5は高坏の底底部。6は高坏脚部で、脚柱部内面に横方向のケズリが施される。7は土師器の壺口縁部である。

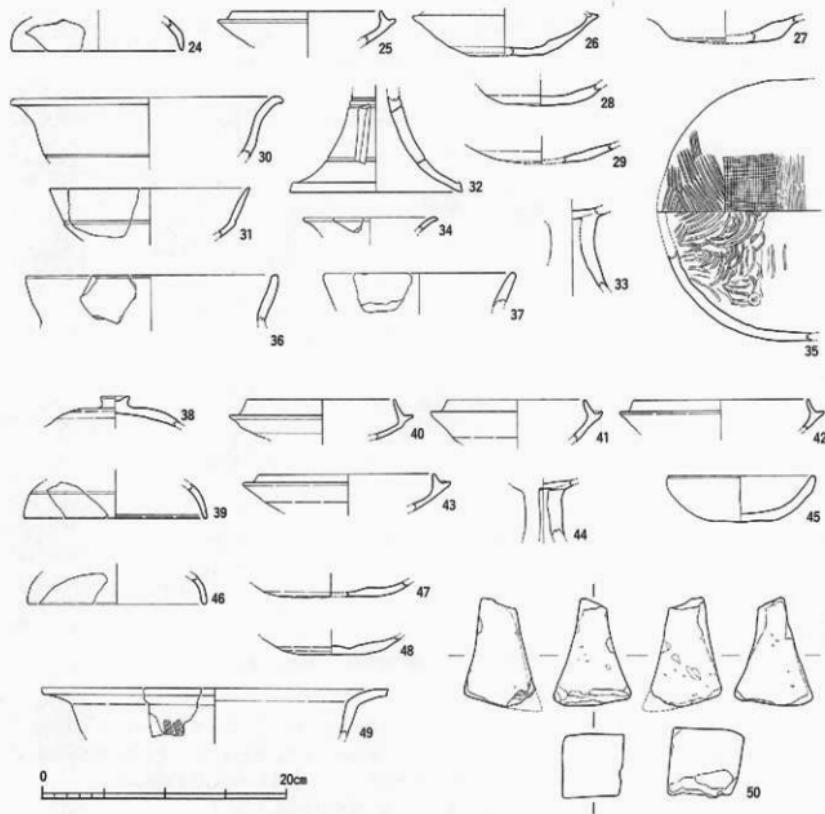


図128 3次調査SD-21出土遺物実測図(2) (縮尺1/4)

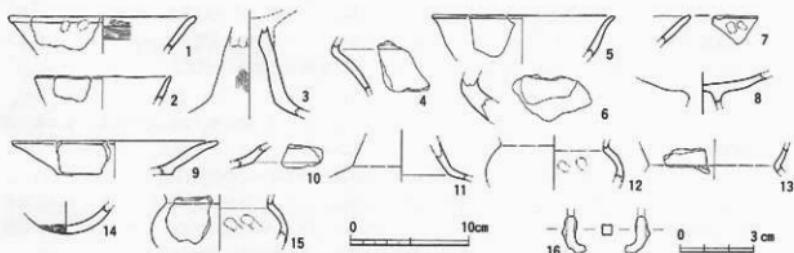


図129 3次調査SD-22出土遺物実測図 (縮尺1/4、1/2)

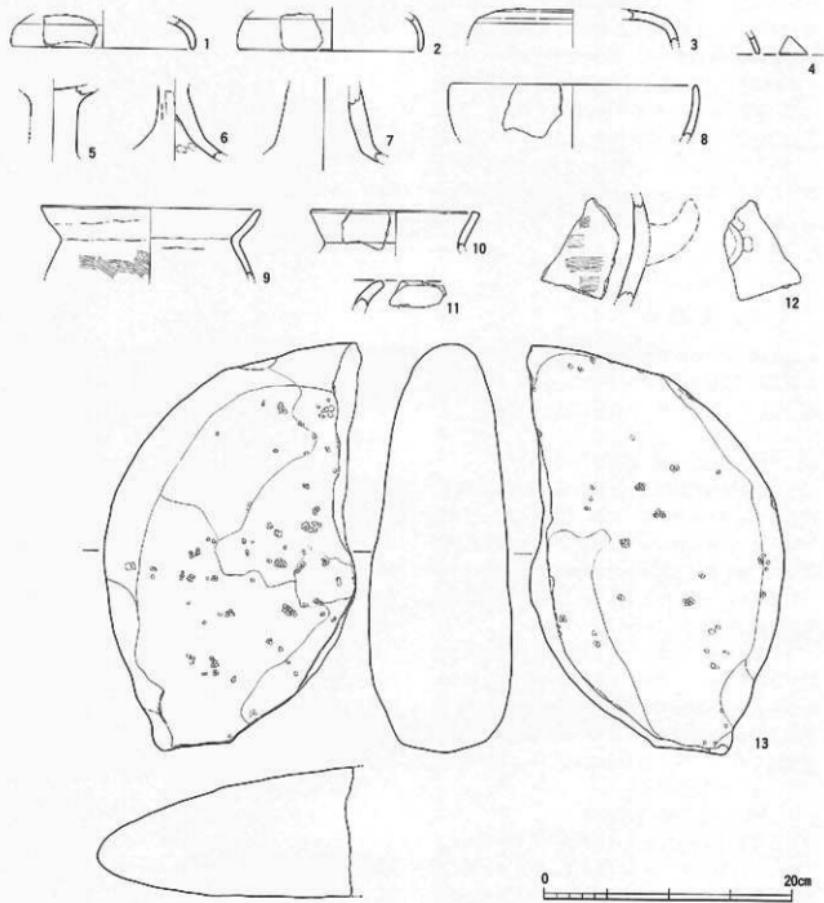


図130 3次調査SD-23出土遺物実測図（縮尺1/4）

(3) 小結

3次調査Ⅰ区では、柱穴・小穴数基の検出に留まつたが、Ⅱ区では南北方向の溝を4条検出したことになる。このうち、SD-28は時期不明ながら、他の溝は遺物を伴い、その変遷が明らかである。まず、SD-22(24)が5世紀中頃に掘削され、度数の埋没・掘り直しを経て5世紀後半に埋没してしまう。続いて6世紀代にSD-23が掘削され、6世紀後半には埋没する。そしてSD-21が掘られ、2度程の掘り直しを経て、7世紀のうちに埋没してしまう。ほぼ間断なく溝の掘削・埋没が続くようで、堆積土層から水路として機能していたことが窺える。

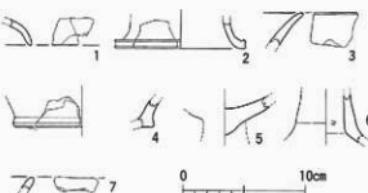


図131 3次調査Ⅱ区Ⅲ層出土遺物実測図(縮尺1/4)

ii 4次調査

4次調査は、新設される排水管路埋設に基づき枝状に調査区が連続し、屈曲や分岐によってⅠ～Ⅳ区に分割している。以下、その区割毎に記述していく。

(1) I区(図132～133、図版37-1・2)

当初、1号棟建物際は、建築時の余掘内と推測して調査対象地域から外していたが、並行して行った管路本体部分の掘削範囲でも発見の及んでいないことが確認され、施工業者と協議の上、計画管路部分すべてについて調査を実施することにした。結果、I区は総延長20m弱に及ぶ。

この地点では、アスファルト舗装面から約45cmの深さで遺構を検出した。検出した遺構の大半は、杭痕と思われる径10cm前後の小穴で、若干の柱穴が伴う。他に溝を2ヶ所で確認し、II区へ広がる堅穴式住居1棟を検出している。溝・豎穴式住居を中心に遺物が出土している(図134、図版43-2)。

① SD-1(図132、図版37-5)

枝管の最南端部分で北東～南西方向の深さ35cm以上のSD-1を確認した。理土は黒褐色シルトで、地山IV層の小塊を含み、一部がラミナ状の堆積をなす。後に築木枠設置に伴う追加調査で、その延長部分が確認でき、深さが95cmにも及ぶことが判明した。出土遺物で図化できたのは1点のみ。1は須恵器の蓋で外側にやや弱い棱をもつ。6世紀中頃。

② SD-41(図132、図版37-3)

2号棟壁際のやや西寄りの地点で、幅約2.3m、深

さ80cmのSD-41を検出した。両岸は崩れのためか段をなす。溝の西端部分には既設の管路が2本走り、発掘調査を行えておらず不明であるが、東側の溝の掘り込みは垂直に近く、人工的な溝であることは確かである。上層はシルトが堆積して少量の遺物が混じるのに対して、下層は砂質土が鱗状をなして堆積しており、流水が伴う。遺物は、底面付近の砂層から折り重なって出土している。SD-41は位置関係等から、3次調査SD-21の北側延長にあたり、後記するIV区のSD-286がさらにその延長の可能性が高い。なお、SD-1はSD-41からの分流と考えられる。

出土遺物の内、図化できたのは13点。2～4は8層以上の上層出土。2はやや小型の須恵器の蓋で、内外面ともに回転ナデが施される。6世紀後半～7世紀初頭。3は須恵器の壺口縁部で、ラッパ状に開き外面に粗い備描き波状文が施される。4は土師器の壺口縁部で、内面に横方向のナデが施される。

5～14は9層以下の下層出土。5・6は須恵器の蓋。5は口縁部外面に棱線が明瞭に入る。焼成は不良。6は口縁部の立ち上がりが弱く、やや器高の浅いタイプ。7～9は須恵器の壺部。7は口縁部に接合痕が顕著に残る。10は須恵器高杯の脚部で、長方形透かしの下部には円錐状の凹みが見られる。11は小型の縁で、胴中位に浅い沈線文が施される。12は緩やかに外反する須恵器壺の口縁部である。口縁部は下方に拡張され、端面下半に沈線が1条施される。13・14は土師器壺。13は口縁が緩やかに内湾しながら立ち上が

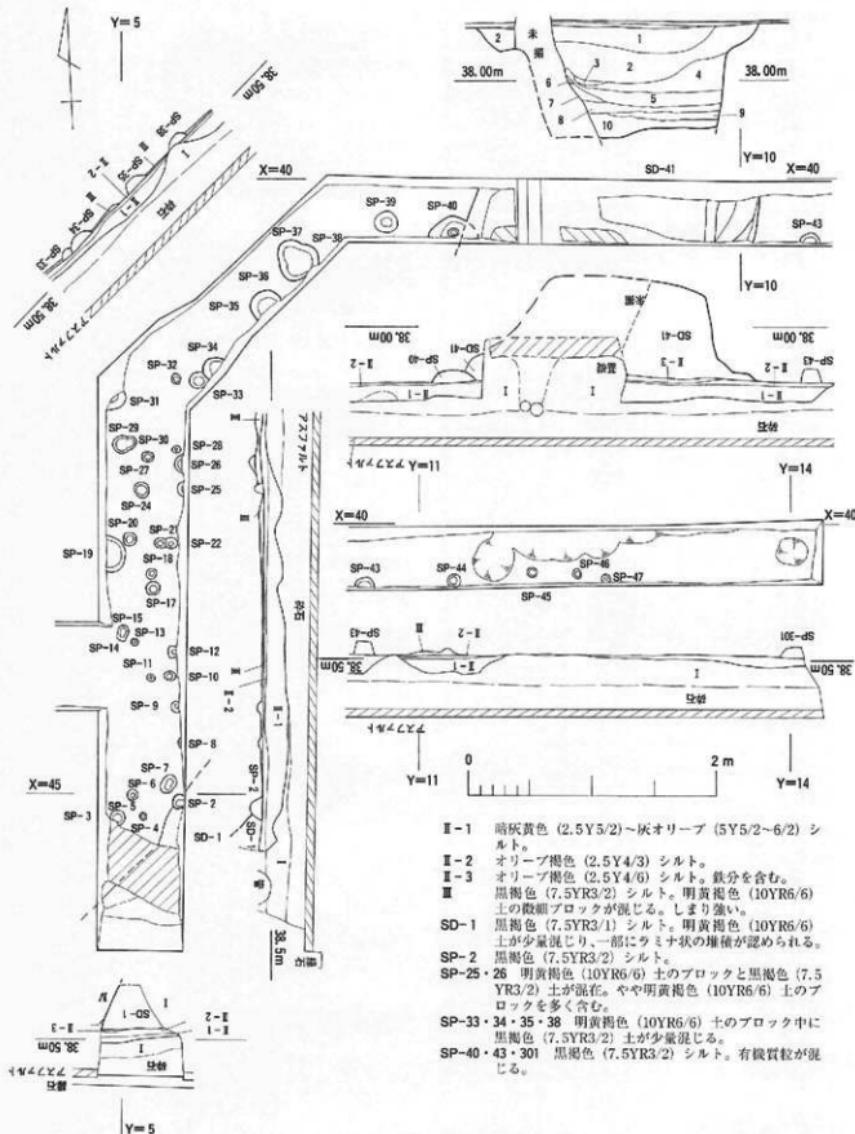


図132 4次調査 I区実測図 (縮尺 1/40)

図132 SD-41北壁土層注記

- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト。明黄褐色 (10YR6/6) 砂質シルトの2~3mmの丸いブロックが混じる。遺物が混じる。
- 2 黒褐色 (10YR2/2) 砂質シルト。1層に比べて砂質が強い。明黄褐色 (10YR6/6) 砂質シルトおよび、黄褐色 (10YR5/6) 砂質シルトの2~3cmの丸いブロックが混じる。遺物含む。
- 3 黒色 (10YR2/1) シルト。黄褐色 (10YR5/6) 砂質シルトの2~3mmの丸いブロックが混じる。
- 4 黑色 (10YR2/1) シルト。黄褐色 (10YR5/6) 砂質シルトの5~10mmの明黄褐色 (10YR6/6) 砂質シルトの丸いブロックが混じる。土器片が混じる。
- 5 黑色 (10YR2/1) シルト。黄褐色 (10YR5/6) 砂質シルトの小ブロックが混じる。東側では明黄褐色 (10YR6/6) 砂質シルトの幅5mmの薄いレンズ状ブロックが混じる。



図133 4次調査I区・II区実測図(縮尺1/40)

- 6 黒色 (10YR2/1) シルト。黄褐色 (10YR5/6) 砂質シルトの丸いブロックが多く混じる。
- 7 黒色 (10YR2/1) シルト。黄褐色 (10YR5/6) 砂質シルトの丸いブロックが多く混じる。6層に比べて砂質が強い。
- 8 暗褐色 (10YR3/3) 砂質シルト。明黄褐色 (10YR6/6) の丸いブロックが少量混じる。炭化物・土器片が混じる。
- 9 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土。きめは細かい。
- 10 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質土。明黄褐色 (10YR6/6) 砂質シルトの小指先大のブロック・2~3mmの砂礫が混じる。炭化物が画面上に広がる。古墳時代後期のローリングを受けた土器が層状に混じる。

SP-42

- 1 黒褐色 (10YR3/1) シルト。灰黄褐色 (10YR6/2) シルトおよび明黄褐色 (10YR7/6) 砂質シルトの丸いブロックが多く混じる。鉢分の沈着あり。
- 2 黑褐色 (10YR3/1) シルト。灰黄褐色 (10YR6/2) シルトおよび明黄褐色 (10YR7/6) 砂質シルトの丸いブロックが多く混じる。
- 3 黑褐色 (10YR3/1) シルト。灰黄褐色 (10YR6/2) シルトの丸いブロックが多く混じる。
- 4 黑褐色 (10YR3/1) シルト。
- 5 黑褐色 (10YR3/1) シルト。灰黄褐色 (10YR6/2) シルトの丸いブロックが多く混じる。
- 6 黑褐色 (10YR3/1) シルト。明黄褐色 (10YR7/6) 砂質シルトのレンズ状ブロックが多く混じる。
- 7 黑褐色 (10YR3/1) シルト。にぶい黄橙色 (10YR7/2) の丸いブロックが多く混じる。
- 8 黑褐色 (10YR3/1) シルト。にぶい黄橙色 (10YR7/2) および明黄褐色 (10YR7/6) 砂質シルトのレンズ状ブロックが多く混じる。
- SC-51 暗褐色 (10YR3/3) シルト。小指先~親指程の灰黄褐色 (10YR6/2) シルトの丸いブロックが多く混じる。
- SC-53 暗褐色 (10YR3/3) シルト。灰黄褐色 (10YR6/2) シルトの2~3mmの丸いブロックが混じる。
- SC-54 暗褐色 (10YR3/3) シルト。灰黄褐色 (10YR6/2) シルト、明黄褐色 (10YR7/6) シルトの2~5mmの丸いブロックが混じる。しまりあり。
- SC-55 暗褐色 (10YR3/3) シルト。灰黄褐色 (10YR6/2) シルトおよび明黄褐色 (10YR7/6) シルトの2~3mmの丸いブロックが混じる。

る。内外面ともに横ナデ。14は屈曲部から脣上半にかけて、内外面ともに横方向の粗いハケメが施される。

SD-41出土遺物のうち、下層出土遺物は5世紀後半から6世紀後半に位置づけられ、3次調査SD-21下層出土遺物にはほぼ一致する。ただし、上層出土遺物は数が少なく、3次調査SD-21中層出土の7世紀に下る遺物は見出せない。

③ SC-51 (図133、図版37-6)

I区西端、II区南端で検出した。主軸を北北西-南東にある一辺3m以上の方形堅穴式住居。深さ10~15cm程が残り、床面は38.35mの標高に位置する。主柱穴は不明。住居の隅部付近には、調査区西壁及び平面で溝状の落ち込みが見られることから、周壁溝をもつと見られる。SC-367と切り合が、先後関係は不明。

出土遺物で図化できたのは4点。15~17は須恵器の蓋。17は口縁邊部外面に刻みを施す。端部内面には不明瞭な内傾する段が見られる。6世紀中頃。18は土師器甕で、口縁部はやや外傾し、屈曲部外面は強い横ナデにより凹む。以上の所見から、堅穴式住居が機能したのは6世紀前葉から中頃と考えられる。

④ SC-367 (図133・150)

SP-42は、調査区の北壁にそって、柱穴のほぼ半分程度を検出できた。直徑約80cmを測る。埋土の観察では、柱痕もしくは抜き取り痕が認められる(図版37-4)。柱間などの検討から、5次調査のSP-24と対応して堅穴式住居(SC-367)の主柱穴をなすと考えられる。図化できなかったが、出土遺物には土師器片が数点ある。

⑤ 柱穴・小穴

少數の柱穴と杭跡と思われる径10cm前後の小穴を多数検出している。図化できなかつたがSP-3からは、土師器片が少量出土し、SP-15周辺のⅢ層から古墳時代後期の土師器甕片・須恵器片が出土している。19はSP-15もしくはⅢ層出土の須恵器の蓋。体部からやや強く屈曲して口縁部にいたる。6世紀後半。

(2) II区 (図133・135・136、図版38-1・2)

II区は2号棟西側の南北約17mの区間。アスファルト舗装面から約45cmの深さで遺構を検出した。調査区中、最も遺構が集中し、遺物も多い(図137、図版43-1・2)。まず南端に堅穴式住居SC-51があり、わずかに間を空けて、堅穴式住居等(SC-52・SC-53~55・

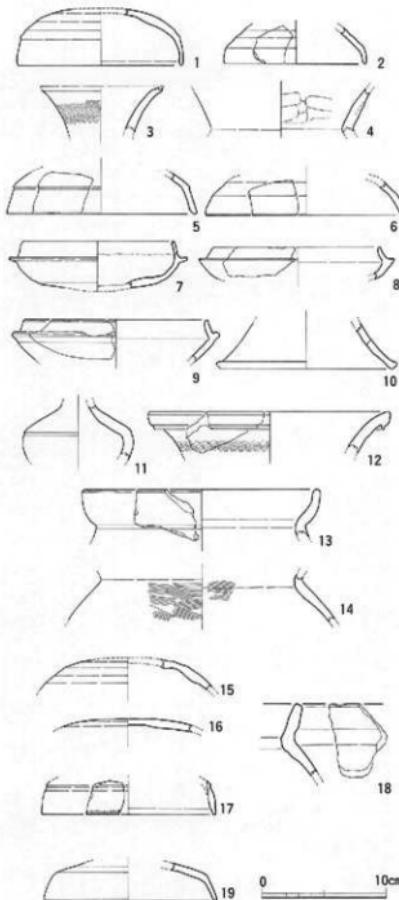
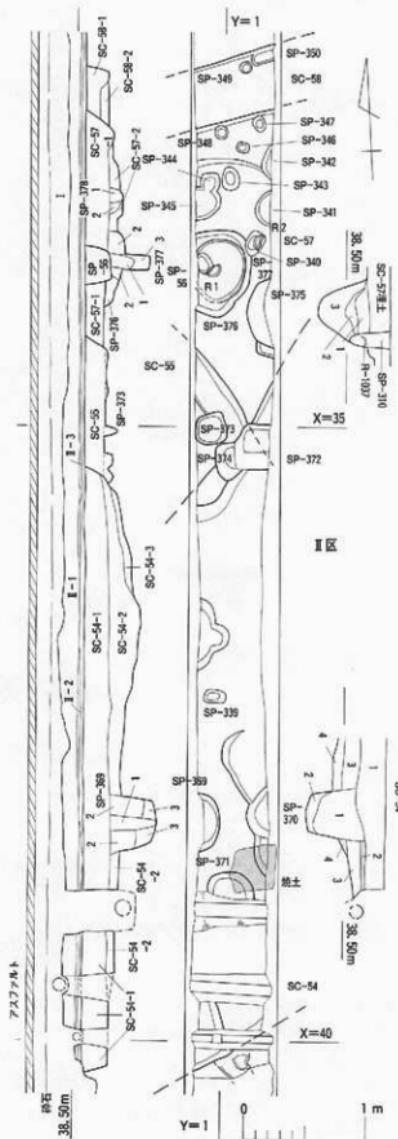


図134 4次調査I区出土遺物実測図(縮尺1/4)

57・58)が重複する。さらにもう一度わずかな間隙を空けて、堅穴式住居(SC-62・SC-61)が存在する。

① SK-52 (図133)

SC-51の北に連なる小型の土壇で、SC-51にその南端を辛うじて切られる。土師器片が数点出土。6世紀前半から中頃以前に位置づけられる。

**SP-369**

- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト。明黄褐色 (2,5Y6/6) シルトおよび砂礫が混じる。しまりやや弱く、粘性あり。
- 2 黒褐色 (7,5YR2/2) シルト。明黄褐色 (2,5Y6/6) シルトの3mmブロックが多く混じる。
- 3 暗オーリーブ褐色 (2,5Y3/3) シルト。明黄褐色 (2,5Y6/6) シルトのブロック間に黒褐色シルトが混じる。しまり弱い。

SP-370

- 1 黒褐色 (7,5YR2/2) シルト。SC-54の2層に近似。わずかに粘性強い。
- 2 暗オーリーブ褐色 (2,5Y3/3) シルト。明黄褐色 (2,5Y6/6) シルトのブロック間に黒褐色シルトが混じる。しまり弱い。

SC-54

- 1 黒褐色 (7,5YR2/2) シルト。褐色 (7,5YR4/4) ～にぶい黒褐色 (7,5YR5/3) の砂礫、土器細片が多く混じる。しまり強い。
- 2 黒褐色 (7,5YR2/2) シルト。にぶい赤褐色 (5YR4/3) の焼土がラメ状に混じる。土器含む。
- 3 黑褐色 (7,5YR2/2) シルト。1層に比べ砂礫の混じり少ない。粘性あり。
- 4 暗褐色 (7,5YR2/3) シルト。明黄褐色 (2,5Y6/6) シルトが混じる。しまり弱い。

SC-55

- 1 黒褐色 (7,5YR2/2) シルト。にぶい赤褐色 (5YR4/3) の焼土がラメ状に混じる。土器含む。
- 2 黑褐色 (7,5YR2/2) シルト。1層に比べ砂礫の混じり少ない。やや粘性あり。

SP-56

- 1 黑褐色 (7,5YR3/2) シルト。SC-57埋土に比べ砂礫の混じり少なく、均質で粘性高い。

SP-310

- 1 黑褐色 (7,5YR2/2) シルト。SC-57埋土に比べ砂礫の混じり少なく、均質で粘性高い。

SC-57

- 1 黑褐色 (7,5YR2/2) シルト。褐色～にぶい褐色の砂礫が多く混じる。しまり強い。
- 2 黑褐色 (7,5YR3/2) シルト。1層に比べ、砂礫が多い。特に上面近くではラミナ状を呈する。

SP-375

- 1 黑褐色 (7,5YR2/2) シルト。SC-57の1・2層に比べ、砂礫の混じり多く、しまり強い。
- 2 暗オーリーブ褐色 (2,5Y3/3) シルト。明黄褐色 (2,5Y6/6) シルト。ブロック間に黒褐色 (7,5YR2/2) シルトが混じる。粘性あり。
- 3 黑褐色 (2,5Y2/2) シルト。1層に比べ、砂礫の混じり少なく、粘性強い。

SP-376

- 1 暗褐色 (7,5YR3/3) シルト。砂礫はSC-57の2層に近いが、粘性ややあります。

SP-377

- 1 黑褐色 (7,5YR2/2) シルト。砂礫の混在は少なく、粘性あります。しまり弱い。ブロック状堆積。
- 2 暗オーリーブ褐色 (2,5Y3/3) シルト。明黄褐色 (2,5Y6/6) シルトブロックが混じる。
- 3 黑褐色 (10YR2/3) シルト。1層に比べ、明黄褐色 (2,5 Y6/6) シルトの割合が多い。粘性あります。しまり弱い。

SP-378

- 1 褐色 (10YR4/4) シルト。明黄褐色 (2,5Y6/6) シルトのブロックが混じる。
- 2 黑褐色 (7,5YR2/2) シルト。砂礫の割合はSC-57埋土に比べてやや少ないが、粘性あります。

SC-58

- 1 黑褐色 (7,5YR2/2) シルト。SC-57の1層に比べ、砂礫の割合やや少ない。しまりあります。
- 2 黑褐色 (2,5Y3/2) シルト。褐色 (10YR4/4) シルトが混じる。しまりあります。砂礫多い。

図135 4次調査II区実測図（縮尺1/40）

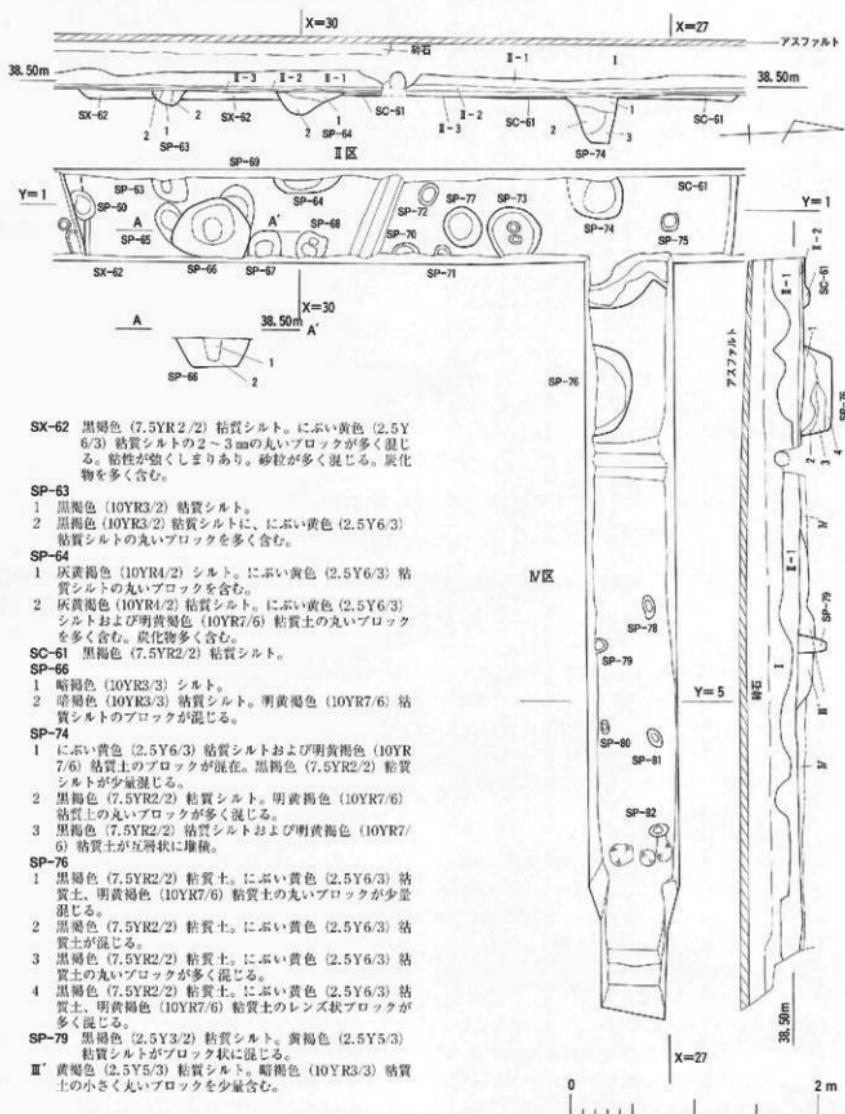


図136 4次調査II区・IV区実測図（縮尺1/40）

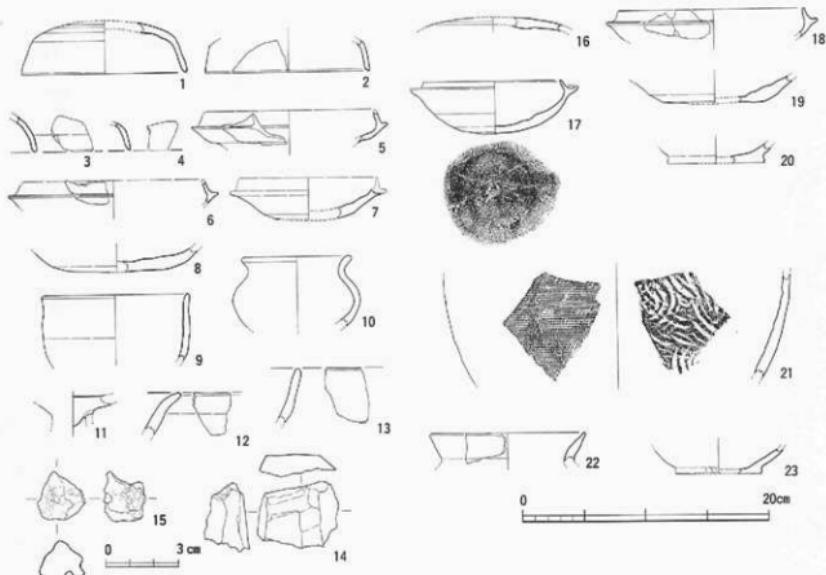


図137 4次調査Ⅱ区出土遺物実測図（縮尺1/4、1/2）

② SC-53（図133）

SC-53は、SK-52を切るが、北をSC-54に切られて、1m程の範囲が残るのみ。SC-51に主軸を平行させる方形堅穴式住居と考えられる。残存する深さがわずか10cm程度と微妙ながら、SC-51に切られていると考える。遺物は出土していない。切り合い関係から6世紀後半前後に位置づけられる。

③ SC-54・SC-366（図135・150）

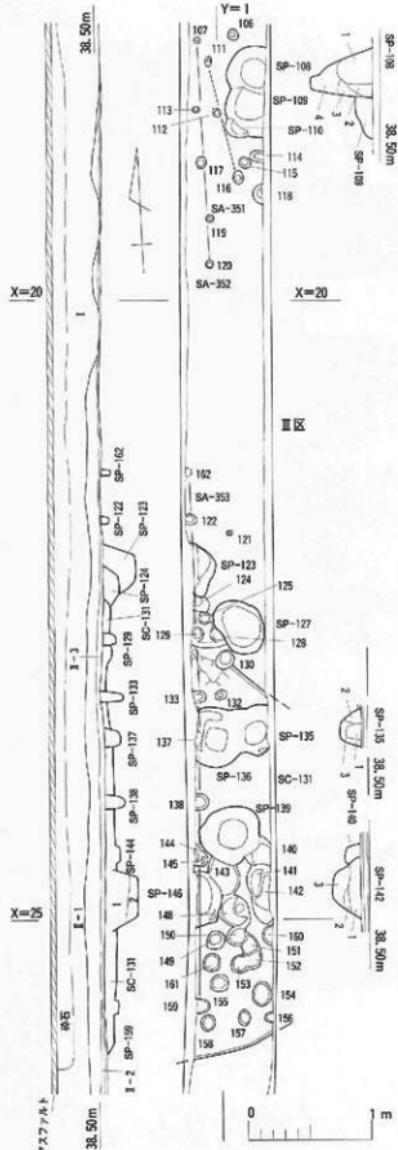
先の『年報』では溝として報告しているが、主軸を北西-南東にふる一辺約5mを測る方形の堅穴式住居SC-54とした。SC-53・55を切る。床面は標高38.20m付近にあり、床面下には北側のみ周溝状の落ち込みがある。調査区東壁に沿って面的に広がる焼土層が確認でき、窓に開通する堆積の可能性も考えられる。主柱穴の可能性を考えられるのは、SP-369-371である（図版38-4・5）。ただし、SP-369は5次調査SP-20と同一の柱穴と考えられ、柱間等の検討から5次調査SP-32とともに、堅穴式住居（SC-366）の主柱穴をなす可能性が高い。SC-54とSC-366とは建物の向き

が異なることから、SC-366はSC-54に先行する別造構の可能性が高い。したがって、SC-54の主柱穴はSP-370・371もしくは調査区外と考えられる。

SC-54からは須恵器・土師器が多数出土している。図化できたのは15点。1～4は須恵器の蓋。6世紀後半～7世紀初頭。5～8は須恵器の壺。6は内外面とも赤褐色。6世紀中頃～7世紀前葉。9は須恵器鉢の口縁部。胸部はほとんど張らず、口縁部はわずかに外反し、端部は丸く收める。7世紀。10は須恵器の小壺で、胴が強く張り、口縁部が短く外反する。11は土師器高壺の壺底部。12は鉢の口縁部で、口縁部に傾斜変換点をもち、先端付近でわずかに屈曲する。13は土師器壺の口縁部である。14は砂岩製砥石。15は鉄滓。

以上その他に、SC-54～58出土として取り上げた遺物には、土師器壺・瓶、須恵器が多数見られる。図化できたのは18～20である。18・19は須恵器の壺である。

6世紀後半。20は土師器壺の底部で、10世紀。SP-310からも同時期の土師器壺が出土しており、SC-54～58埋土中には同様の柱穴が存在していたと考えられる。



SP-108

- 1 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト。下部を中心に明黄褐色 (10 YR7/6) シルトの多いブロックが多く混じる。
- 2 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト。明黄褐色 (10YR7/6) シルトのブロックが多く混じる。やや粘性が強い。
- 3 浅黄色 (2.5Y7/4) シルト。
- 4 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト。1 ~ 3層に比べて明黄褐色 (10YR7/6) シルトブロックの割合は少ない。

SP-109 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト。明黄褐色 (10YR7/6) のブロックが多く混じる。

SP-122 黒褐色 (10YR2/2) シルト。明黄褐色 (10YR6/6) シルトがブロック状に混じる。

SP-123 黒褐色 (10YR2/2) シルト。にぶい黄褐色 (10YR6/3) シルトおよび明黄褐色シルト (10YR7/6) の丸いブロックが多く混じる。

SP-124 黒褐色 (10YR2/2) シルト。にぶい黄褐色 (10YR7/3) シルトのレンズ状ブロックが多く混じる。

SP-129 黒褐色 (10YR2/2) シルト。明黄褐色 (10YR6/6) シルトにぶい黄褐色 (10YR7/3) シルトの丸いブロックが多く混じる。

SC-131 黒褐色 (10YR2/2) シルト。にぶい黄褐色 (10YR7/3) シルト、浅黄色 (10YR8/3) 砂質土、明黄褐色 (10YR7/6) シルトのブロックが多く混じる。しまりあり。

SP-133 黑褐色 (10YR2/2) シルト。にぶい黄褐色 (10YR7/3) シルトの丸いブロックが混じる。

SP-135 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト。明黄褐色 (10YR7/6) シルトの2 ~ 3mmの丸いブロックが多く混じる。

2 黒褐色 (10YR2/2) シルト。明黄褐色 (10YR7/6) シルトの2 ~ 3mmの丸いブロックが多く混じる。1層に比べて明黄褐色 (10YR7/6) シルトのブロックの割合が多い。

3 黒褐色 (10YR2/2) シルト。黄色 (2.5Y8/8) シルトの3 ~ 4mmの丸いブロックが混じる。

SP-137 黒褐色 (10YR2/2) シルト。にぶい黄褐色 (10YR7/3) 砂質土、浅黄褐色 (10YR8/3) 砂質土の丸いブロックが多く混じる。

SP-138 黒褐色 (10YR2/2) シルト。にぶい黄褐色 (10YR7/3) 結晶質シルト。

SP-139 黒褐色 (10YR2/2) シルト。明黄褐色 (10YR7/6) シルトのブロックが多く混じる。

SP-140 黒褐色 (10YR2/2) シルト。にぶい黄褐色 (10YR7/3) シルトのレンズ状ブロックが多く混じる。

SP-142

- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト。にぶい黄褐色 (10YR7/3) シルトおよび明黄褐色 (10YR7/6) シルトの丸いブロック、炭化物が混じる。
- 2 黑褐色 (10YR2/2) シルト。明黄褐色 (10YR7/6) シルトの丸いブロックが混じる。
- 3 黑褐色 (10YR2/2) シルト。にぶい黄褐色 (10YR7/3) シルトの大型ブロックが多く混じる。炭化物あり。

SP-144 黑褐色 (10YR2/2) シルト。にぶい黄褐色 (10YR7/3) シルトの丸いブロックが少量混じる。

SP-146

- 1 黑褐色 (10YR2/2) シルト。にぶい黄褐色 (10YR7/3) シルト、浅黄褐色 (10YR7/3) 砂質土、明黄褐色 (10YR7/6) シルトの丸いブロックが多く混じる。
- 2 黑褐色 (10YR2/2) シルト。にぶい黄褐色 (10YR7/3) シルトのレンズ状ブロックが多く混じる。

SP-159 黑褐色 (10YR2/2) シルト。にぶい黄褐色 (10YR7/3) シルトの丸いブロックが混じる。

SP-162 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト。

図138 4次調査III区実測図(縮尺1/40)

(遺構名「SP-」一部省略)

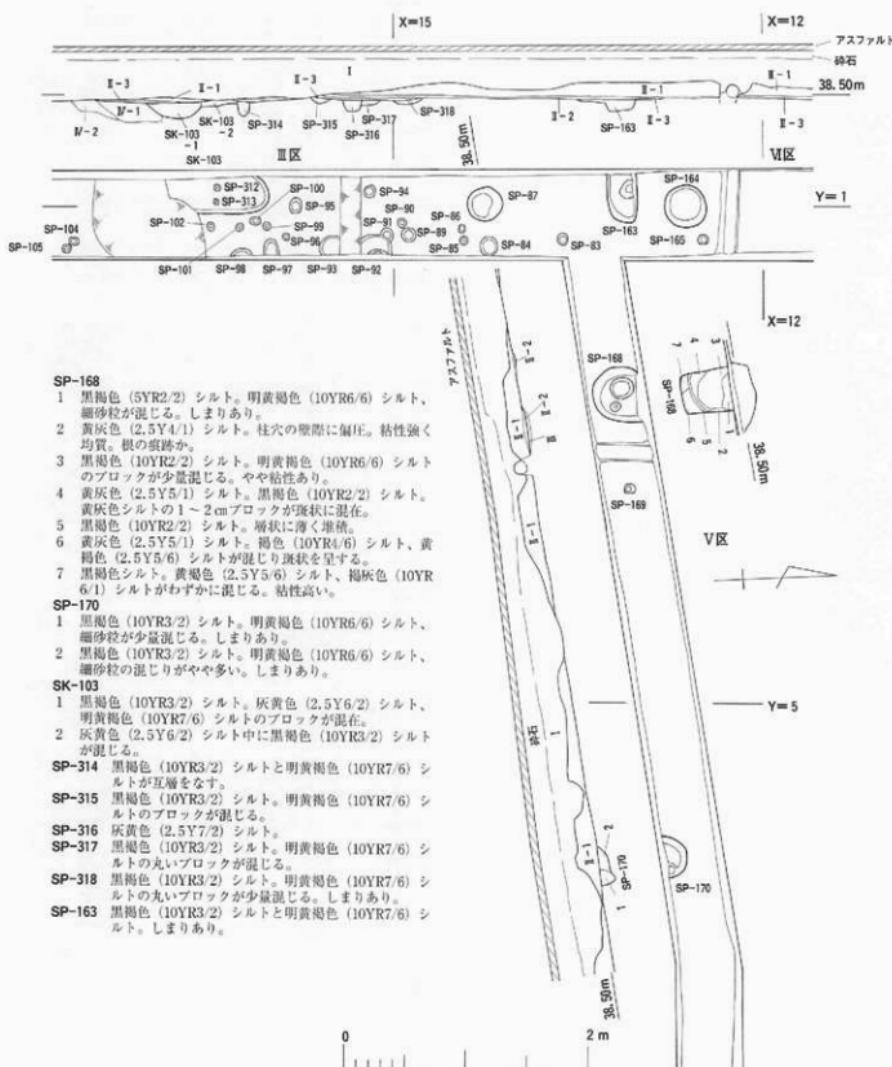


図139 4次調査III区・V区実測図（縮尺1/40）

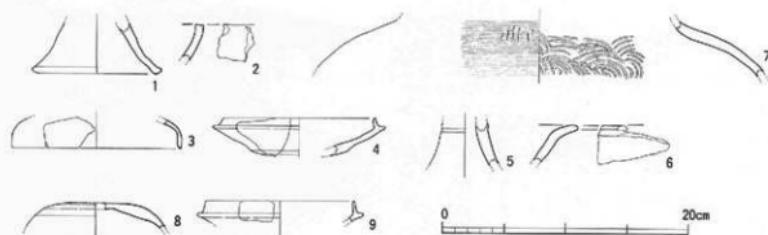


図140 4次調査Ⅲ区出土遺物実測図（縮尺1/4）

以上、SC-54からは6世紀中頃～7世紀初頭の遺物が多数見られるが、最新相の遺物（7・9）から、SC-54は7世紀前葉に位置づけられる。

④ SC-55（図135）

SC-57を切り、SC-54に切られる。調査区の一部に、遺構の北東端が約80cm見られるのみで、遺構の平面プランは不明である。調査区西壁土層の観察では、遺構の北側立ち上がり近くで周溝状に小さく落ち込み、底面が水平面を形成していることから、竪穴式住居の可能性が高い。埋土中出土の遺物は、先に掲げた18~20の他に土師器片が1点あるのみである。6世紀末～7世紀前葉に位置づけられる。

⑤ SC-57（図135）

SC-58を切り、SC-55・SP-56に切られる。SP-375（図版38-6）もしくはSP-376・377が主柱穴と考えられる。SC-54同様に床面下には周溝状の落ち込みが巡る。西壁土層では、北側の遺構の立ち上がりに沿って、周溝溝が認められる。

SC-57出土遺物からは2点が図化できた。16は須恵器蓋の天井部である。17はSP-56出土R1とSC-57出土R2が接合した須恵器環の完形品である（図版38-3）。底部外面にヘラ記号が刻まれる。これらからSC-57は6世紀末～7世紀前葉に位置づけられる。

⑥ SC-58（図135）

SC-57に切られる。南北方向にわずか50cmほど確認したのみだが竪穴式住居と考えられる。西壁土層の観察から住居の壁に沿って周溝溝が伴う。床面は南側のSC-57より一段高い。出土遺物は、先に掲げた18~20のみである。6世紀末～7世紀前葉以前に位置づけられる。

⑦ SK-59（図133）

SC-54に切られる土壙。形状不明で、出土遺物もない。切り合い関係から7世紀前葉以前。

⑧ SC-61（図136、図版39-2）

調査段階では、埋土と底面のレベルの違いから、SX-62とは別遺構と認識した。ただし、一連の遺構を考えると、南北約5.2mを測る竪穴式住居となり、方形を呈する。図化できないが、埋土中から土師器片が数点出土している。

⑨ SX-62（図136）

SC-61と一連の遺構の可能性がある。遺構底面近くのみの残存状況で、平面プランは不明。埋土中から土師器・須恵器が数点出土している。21は須恵器の壺の胸部片である。外面にはカキメ調整、内面には青海波文が施される。

⑩ SC-365（図136・150）

調査区西壁に沿ってSP-64を検出した。柱間等の検討から、5次調査SP-10と対応して、竪穴式住居（SC-365）の主柱穴となる可能性が考えられる。竪穴式住居の平面プランは不明である。

⑪ 柱穴・小穴

SP-66は、柱痕も確認されており、竪穴式住居の主柱穴もしくは掘立柱建物の柱穴の可能性が高い（図版39-3）。22はSP-66出土で、土師器壺の口縁部である。SP-68からは、図化できないが土師器片が1点出土している。SP-74は、SC-61床面で検出した（図版39-4）。SP-310は調査区東壁面で検出（図135）。径約14cmで、SC-57を切る。埋土は、SC-57埋土に比べて粘性が高い。23がSP-310出土。土師器壺の底部で、立ち上がりに指頭圧痕が顕著で体部は内湾する。10世紀。

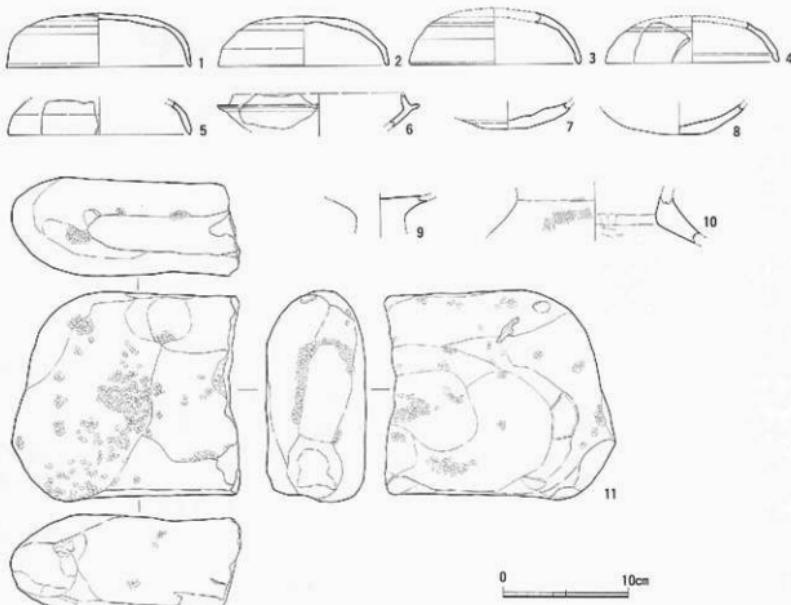


図141 4次調査IV区出土遺物実測図（縮尺1/4）

(3) III区（図138・139）

III区はIV区とV区が分岐する間の南北約13m。II区のSC-61の北にほぼ隣接してSC-131がある。SC-131周辺の柱穴には、堅穴式住居の主柱穴や掘立柱建物の柱穴の可能性が想定される場合が多く、複数の復元案が提示できる。また、欄列1基（SA-353）が想定できる。SC-131より北は、土壙1基（SK-103）と柱穴・小穴を若干確認しており、その中には2基の欄列（SA-351・352）が想定できる。出土遺物はやや少ない（図140）。

① SC-131（図138、図版40-1）

SC-61の北に、わずかの地山面を挟んでSC-131がある。北西—南東に主軸をふる堅穴式住居で、隅丸方形となるものと思われる。規模は不明。出土遺物もない。

② SK-103（図138）

西壁際、南側を搅乱に切られているが、本来は幅約50cm・長120cm程の長楕円形の土壙と推定される。埋

土は、IV層ブロックを含む黒褐色シルト。出土遺物はない。

③ SA-351（図138）

いずれも径10cm程の、SP-111・112・116からなる欄列。柱補強の埋土もなく枕を打ち込んだだけの簡素な構造。埋土は黒褐色シルト。

④ SA-352（図138）

径10cm程の、SP-107・113・117・119・120からなる欄列。埋土は黒褐色シルト。

⑤ SA-353（図138）

径10cm程の、SP-162・122・129・133・137・138・144・159g、調査区西壁に沿って約4mにわたって見られる。埋土は黒褐色シルトが主体。

⑥ SB-361、SC-362、SC-363（図150）

5次調査SP-15を軸に複数の復原案が提示できる。まず、4次調査SP-127、5次調査SP-6・15の組み合わせを想定したのが、掘立柱建物SB-361。4次調

壺SP-136と5次調査SP-15を主柱穴とする竪穴式住居としたのがSC-362。4次調査SP-135と5次調査SP-15を主柱穴とする竪穴式住居とするのがSC-363である。いずれの場合も、5次調査出土遺物から6世紀前半以降に位置づけられる。

⑦ SC-364 (図150)

SP-123・139を主柱穴とすると想定した竪穴式住居である。1・2がSP-123出土。1は須恵器高環の脚部、2は土師器の窓口縁部で、直立気味に立ち上がる。SP-139からは土師器壺部片が出土。6世紀後半以降の年代が与えられる。

⑧ 柱穴・小穴

以上その他にも、SP-142 (図版40-2)、135 (図版40-3)、108・109 (図版40-5) 等、しっかりした柱穴が幾つかある。柱穴・小穴出土遺物で図化できたのは7点。3~6はSP-129出土。3は須恵器の蓋。4は須恵器の环。5は須恵器の高環脚部で、脚柱部に沈線1条が施される。6は土師器鉢の口縁部で、口縁先端で外方に屈曲する。6世紀末~7世紀初頭と考えられる。7はSP-136出土の須恵器甕の胴部片。外面はタタキ後、横方向のカキメ、内面に青海波文が施される。他に土師器甕片も出土している。8・9はSP-146出土。9は須恵器の环身である。6世紀後半~末。さらにSP-146からは土師器片が少量出土。図化していないが、SP-141・142では土師器甕片と瓶片が出土している。

(4) IV区 (図122・136、図版39-5)

IV区は2号棟北に位置する。当初調査区を設定していた6mほどの範囲では、柱穴・小穴をわずかに検出したのみで、遺物も出土していない。それ以東は、供用中の管路があり調査対象外としていたが、5次調査の際に、排水管設置業者から掘削に伴って跡跡が発見されたとの通報を受け、溝1条 (SD-286) を検出し、遺物も出土した (図141、図版43-5~44-1)。

① SD-286 (図122)

II・III区から約20m東の地点、標高約38.40mで検出した。幅約4.5mの落込みで溝状を呈するものと推測し、SD-286とした。若干南西~北東にふらしく、3次調査SD-21、4次調査SD-41に続く溝の可能性が高い。およそ造構の上面5~10cmほどの掘削範囲内ののみを調査したが、遺物は比較的多い。

出土遺物から図化したのは11点。1~5は須恵器の

蓋。3の口縁端部外面には刻目が見られる。6・7は須恵器の环。8は須恵器の甕もしくは甕の底部で、丸底であったものが自重で平底化している。9は土師器高環の环底部で、脚部は中実。10は甕の颈部で外面に縱方向のハケメ、内面にケズリが施される。11は扁平な砂岩の上面と側面を砥面として利用しており、上面には敲打痕が残る。SD-286出土遺物は、6世紀後半前後で、3次調査SD-21下層出土遺物、4次調査I区SD-41下層出土遺物にはほぼ一致する。

② 柱穴・小穴

SP-76 (図版39-6) は調査区南壁に沿って検出した。土層から建物に伴う可能性が高い。また、SP-78・81・82は、等間隔ではないものの直線的に並んでおり、柵列になる可能性も考えられる。

(5) V区 (図139・142)

V区は1号棟南の約10mの間。この地点も本来の計画では調査対象から外していたが、I区同様に、遺構の残存が確認されたため、急遽調査対象とした。II層直下、西端で深さ40cm、東端で深さ55cmで遺構を検出した。III区北部同様に、西半は遺構がまばらで、東半も柱穴・小穴がほとんどで、他にSD-181とSK-189があるのみ。出土遺物も少ない (図143)。

① SD-181 (図142)

幅1m程の落ち込み。深さは10cm程度で、2号棟の南北で検出したSD-1・41・286に直接は連ならないと考えられる。埋土はオリーブ褐色のシルトを主体とする。

② SK-189 (図142)

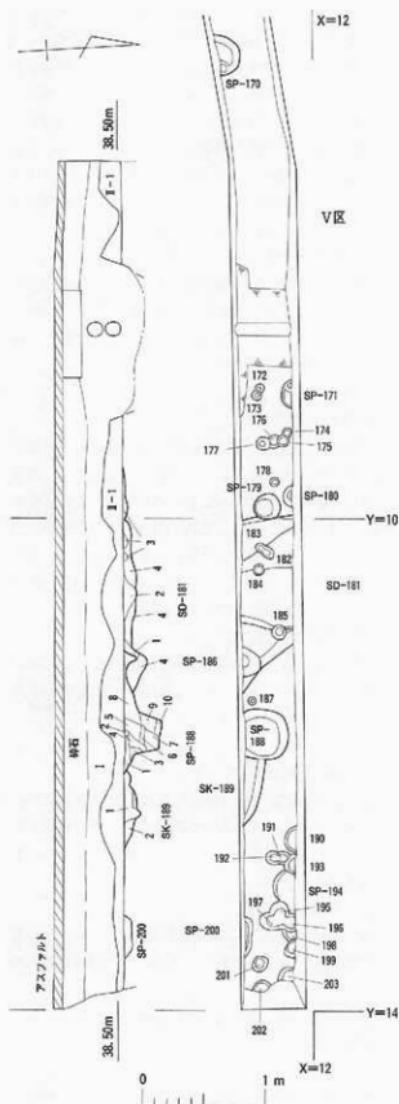
SD-181の西側、SP-188に切られ、北は調査区外へ延びる上端。幅約60cmのみの検出だが、浅い皿状と推定される。埋土は黒褐色~オリーブ褐色のシルト。出土遺物はない。

③ 柱穴・小穴

SP-168 (図版40-6) は掘立柱建物等の柱穴の可能性が高いが、対応する柱穴が不明。SP-188はSD-181の東に位置する柱穴。土師器片と1の須恵器环底部片が出土している。その他にSP-190でも土師器の細片が出土している。

(6) VI区 (図144・146、図版40-4)

VI区はV区の分岐以北、VI区への屈曲以前の約13mの区間。アスファルト面から約45cmほどの深さで遺構

**SP-188**

- 1 黒褐色 (10YR3/2) シルト。明黄褐色 (10YR6/6) シルトの微細粒を含む。しまりあり。
- 2 黄褐色 (2.5Y5/6) シルトのブロック。
- 3 黒褐色 (10YR2/2) シルト。1 層に比べ明黄褐色 (10YR6/6) シルトの微細粒が少量混じる。
- 4 黄褐色 (2.5Y5/4) シルト。黒褐色 (10YR3/2) シルトがラミナ状に混じる。
- 5 黒色 (10YR2/1) シルト。わずかに明黄褐色 (10YR6/6) 土のブロックが混じる。
- 6 鎌色 (10YR4/4) シルト。黒褐色 (10YR3/2) シルトがわずかに混じる。
- 7 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (10YR6/6) シルトの5mmの細粒が多く混じる。しまりあり。
- 8 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (10YR6/6) 土シルトの細粒が多く混じる。しまりあり。
- 9 黒褐色 (10YR3/2) シルト。明黄褐色 (10YR6/6) 土シルトの細粒が少く混じる。
- 10 黑褐色 (10YR3/2) シルト。明黄褐色 (10YR6/6) 土シルトの細粒が少く混じる。粘性あり。

SP-200

- 1 黑褐色 (10YR2/2) シルト。砂砾、明黄褐色 (10YR6/6) シルトの細粒が混じる。しまりあり。

SK-189

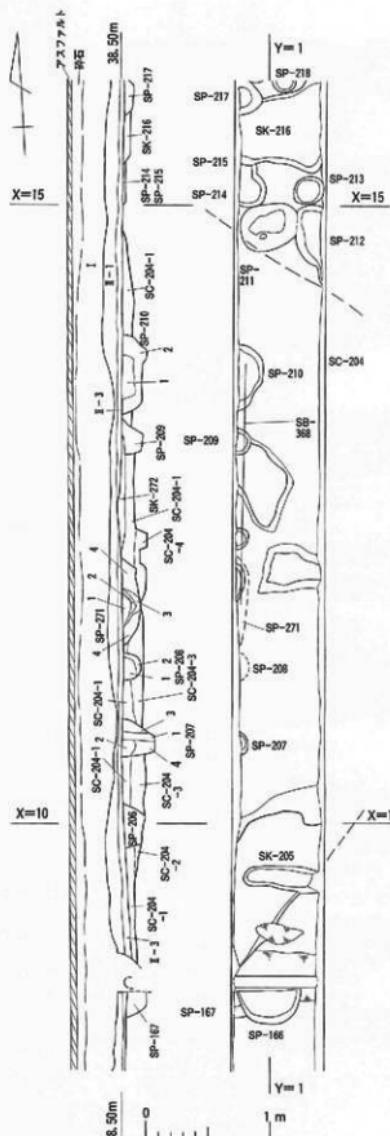
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト。明黄褐色 (10YR6/6) シルト中にわずかに黒褐色 (7.5YR3/2) シルトが混じる。
- 3 暗褐色 (10YR3/4) シルト。粘性あり。
- 4 暗褐色 (10YR3/4) シルト。砂質シルト。しまり弱い。
- 5 黑褐色 (10YR2/2) シルト。砂砾、明黄褐色 (10YR6/6) シルトの細粒が混じる。ややしまりあり。
- 6 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) シルト。黒褐色 (7.5YR3/2) シルト、明黄褐色 (10YR6/6) シルトが斑状に混じる。しまり弱い。

図142 4次調査V区実測図（縮尺1/40）

(遺構名「SP-」一部省略)



図143 4次調査V区出土遺物実測図（縮尺1/4）



SC-204

- 1 黒褐色 (7.5YR2/2) シルト。にぶい黄橙色 (10YR7/2) シルトの丸いブロックが少量混じる。造成土に比べブロックの割合少ない。
- 2 黒褐色 (7.5YR2/2) シルト。にぶい黄橙色 (10YR7/3) シルトの丸いブロックが少量混じる。
- 3 黒褐色 (7.5YR2/2) シルト。明黄褐色 (10YR7/6) シルトとにぶい黄橙色 (10YR7/3) シルトがブロック状に混じる。
- 4 黒褐色 (7.5YR2/2) シルト。明黄褐色 (10YR7/6) シルトと黄褐色 (10YR8/6) シルトの丸いブロックが多く混じる。

SP-207

- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト。明黄褐色 (10YR7/6) シルトの丸いブロックが少量混じる。
- 2 黒褐色 (10YR2/2) シルト。明黄褐色 (10YR7/6) シルトの丸いブロックが多く混じる。
- 3 黑褐色 (7.5YR2/2) シルト。明黄褐色シルトのブロックが多く混じる。
- 4 黑褐色 (7.5YR2/2) シルト。明黄褐色シルトのブロックが混じる。

SP-208

- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト。1~2mmの明黄褐色 (10YR7/6) シルトの丸いブロックが少量混じる。
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト。1~2mmの明黄褐色 (10YR7/6) シルトの丸いブロックが少量混じる。

SP-271

- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト。
- 2 黒褐色 (10YR2/2) シルト。1~2mmの明黄褐色 (10YR7/6) シルトの丸いブロックが少量混じる。
- 3 黑褐色 (10YR2/2) シルト。1~2mmの明黄褐色 (10YR7/6) シルトの丸いブロックが多く混じる。
- 4 黑褐色 (10YR2/2) シルト。やや粘性が強い。

SK-272 黒褐色 (10YR2/2) シルト。

SP-209 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト。1~2mmの明黄褐色 (10YR7/6) シルトの丸いブロックが多く混じる。

SP-210

- 1 黒褐色 (10YR2/2) シルト。明黄褐色 (10YR7/6) シルトの丸いブロックが多く混じる。
- 2 黑褐色 (10YR2/2) シルト。明黄褐色 (10YR7/6) シルトの丸いブロックが多く混じる。

SP-167

- 1 黒褐色 (10YR3/2) シルト。明黄褐色 (10YR7/6) シルトの小ブロックが混じる。しまりあり。

図144 4次調査VI区実測図(縮尺1/40)

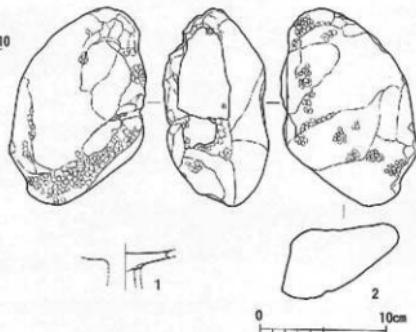


図145 4次調査VI区出土遺物実測図(縮尺1/4)

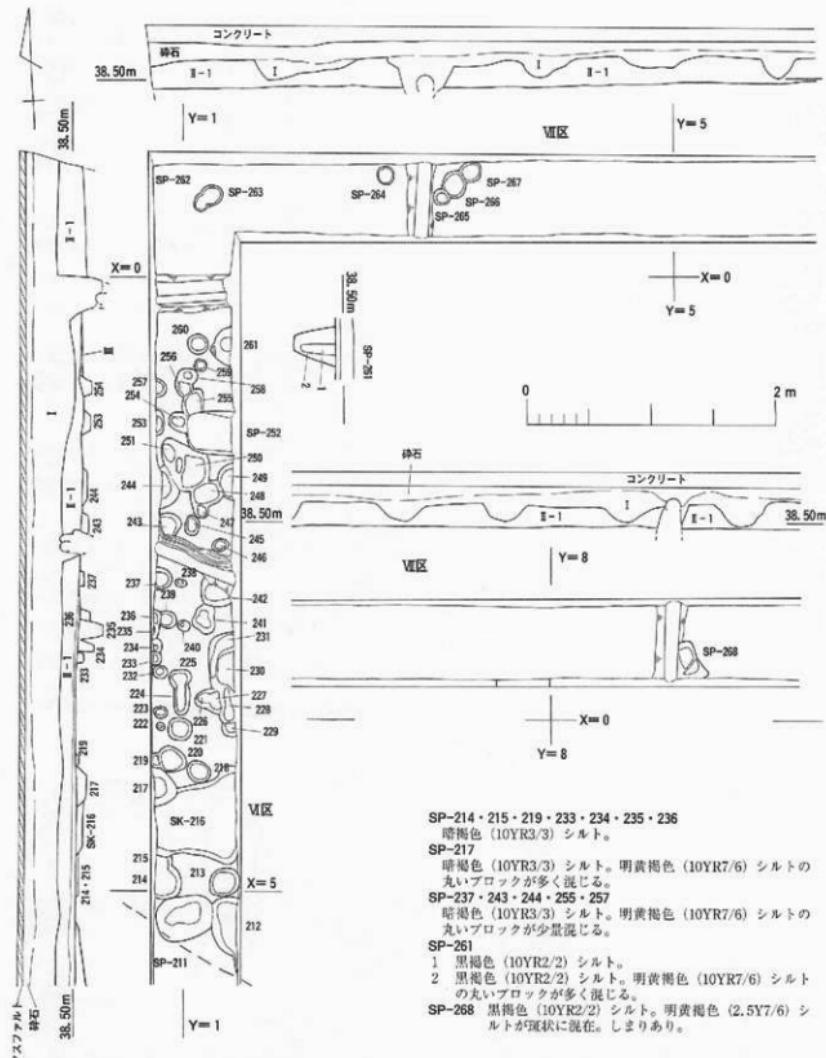


図146 4次調査VI区・VII区実測図(縮尺1/40)(道標名「SP-」一部省略)

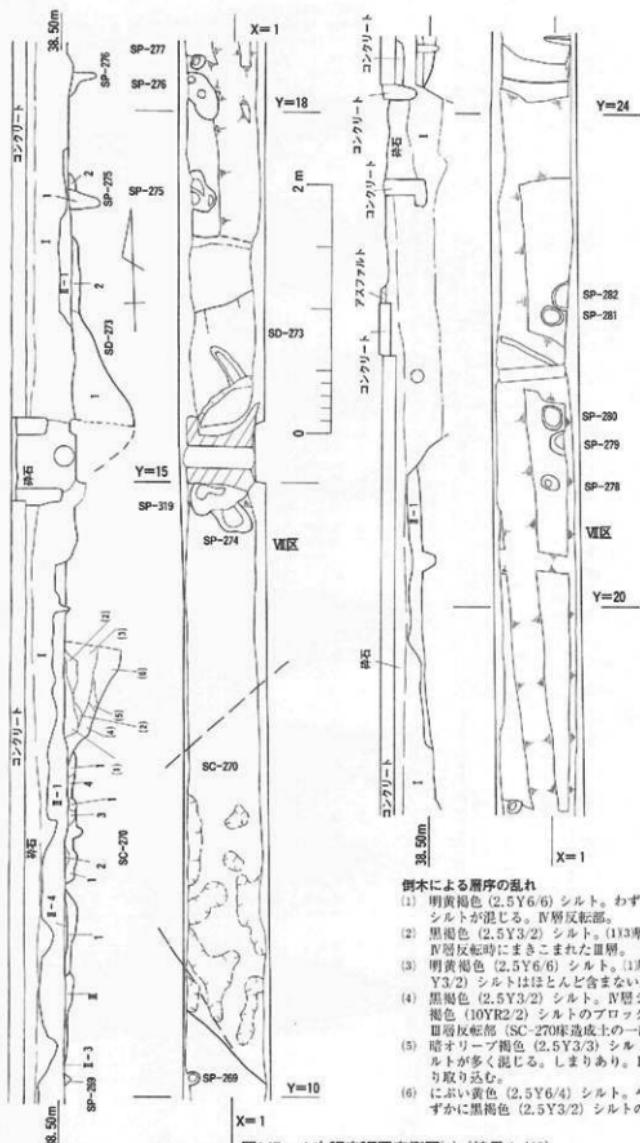


図147 4次調査VII区実測図(1) (縮尺1/40)

倒木による層序の乱れ

- (1) 明黄褐色(2.5Y6/6)シルト。わずかに黒褐色(10YR2/2)シルトが混じる。IV層反転部。
- (2) 黒褐色(2.5Y3/2)シルト。(1)層中に直在。粘性あり。IV層反転時にまきこまれたⅢ層。
- (3) 明黄褐色(2.5Y6/6)シルト。(1)層に比べて黒褐色(2.5Y3/2)シルトはほとんど含まれない。IV層反転部。
- (4) 黒褐色(2.5Y3/2)シルト。IV層シルトの小ブロック、黒褐色(10YR2/2)シルトのブロックが混じる。粘性あり。Ⅲ層反転部(SC-270床造成土の一部か)。
- (5) 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)シルト。(4)層に比べ、IV層シルトが多く混じる。しまりあり。Ⅲ層反転部。IV層をかなり取り込む。
- (6) にぶい黄色(2.5Y6/4)シルト。やや汚れが見られる。わずかに黒褐色(2.5Y3/2)シルトの小ブロック混在。

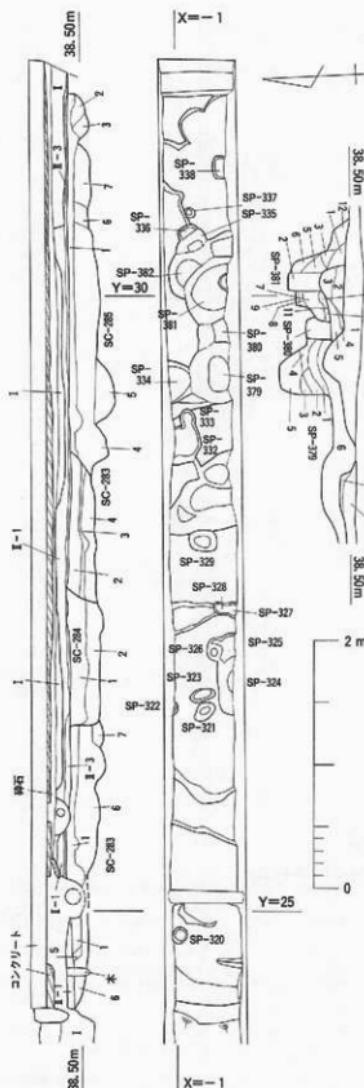


図147 土層注記

- SP-269 暗オリーブ褐色 (2.5YR2/3) シルト。粘性あり。
 II-4 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト。
 SC-270
 1 黒褐色 (7.5YR2/2) シルト。砂礫、明黄褐色 (10YR6/6) シルトの細片が多く混じる。しまりあり。崖造成土。
 2 黒褐色 (10YR2/2) シルト。1層に比べ、やや粘性あり。
 3 黄褐色 (10YR5/6) シルト。黒褐色 (10YR2/2) シルトがラミナ状に混じる。
 4 にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト。3層に比べ、黒褐色 (10YR2/2) シルトの割合多い。

- SP-275
 1 黑褐色 (10YR2/2) シルト。明黄褐色 (10YR6/6) シルトの細粒がわずかに混じる。
 2 黑褐色 (10YR2/2) シルト。オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルトがブロック状に混在。しまり弱い。
 SP-276 黑褐色 (7.5YR2/2) シルト。明黄褐色 (10YR6/6) シルトの細粒が若干混じる。
 SD-273
 1 黑褐色 (5YR3/1) シルト。しまり弱い。
 2 黑褐色 (7.5YR2/2) シルト。明黄褐色 (10YR6/6) シルトの小ブロックが混じる。しまりあり。

図148 土層注記

北壁土層

SC-283

- 1 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土の丸いブロックが少量混じる。
 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土のブロックが少量混じる。SC-284土層に比べてブロックの割合が多い。
 3 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土のブロックが上層ほど多く混じる。
 4 暗褐色 (10YR5/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土のレンズ状ブロックが多く混じる。
 5 明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土。
 6 断面褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土のレンズ状ブロックが多く混じる。粒状の焼土が多量に混じる。
 7 断面褐色 (2.5Y7/6) 砂質土のレンズ状ブロックが多く混じる。

SC-284

- 1 暗褐色 (10YR3/3) シルト。2~3cmの明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土のブロックが極少量混じる。
 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土の丸いレンズ状ブロックが多く混じる。

SC-285

- 1 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土の丸いブロックが斑状に混じる。少量の焼土を混じる。
 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土の丸いブロックが多く混じる。
 3 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土のレンズ状ブロックが暗褐色シルトより多く混じる。しまり強い。
 4 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土のレンズ状ブロックが多く混じる。ブロックは5mm~5cmと多様。しまり強い。焼土が少量混じる。
 5 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土の1cm程のブロックが混じる。
 6 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土のレンズ状ブロック、焼土が少量混じる。
 7 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土のレンズ状ブロックが多く混じる。

図148 4次調査VII区実測図(2) (縮尺1/40)

図148 土層注記

南壁土層

SC-283

- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。
- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土のレンズ状ブロックが多く混じる。しまりあり。

SC-285

- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土の丸いブロックがまばらに混じる。
- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土の丸いブロックが少量混じる。
- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土の丸いブロックが多く混じる。
- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土のブロックが少量混じる。
- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土の丸いブロックが混じる。
- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土のレンズ状ブロックが多く混じる。しまり強い。焼土が少量混じる。

SP-379

- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。
- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土のレンズ状ブロックが混じる。しまりあり。
- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土のレンズ状ブロックが混じる。しまりあり。2層に比べてブロックの割合多い。
- 明黄褐色 (2.5Y7/6) 砂質土。暗褐色 (10YR3/3) シルトが少量混じる。
- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (10YR3/3) 砂質土の丸いブロックが少量混じる。ブロックの割合は比較的小ない。

SP-380 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (10YR3/3) 砂質土の丸いブロックが少量混じる。

SP-381

- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (10YR3/3) 砂質土のレンズ状ブロックが混じる。
- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (10YR3/3) 砂質土のブロックが多く混じる。
- 明黄褐色 (10YR3/3) 砂質土。
- 明黄褐色 (10YR3/3) 砂質土。少量の暗褐色 (10YR3/3) シルトが混じる。
- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (10YR3/3) 砂質土の2~3cmの丸いブロックが多く混じる。
- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (10YR3/3) 砂質土のブロックが少量混じる。
- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (10YR3/3) 砂質土の小さなレンズ状ブロックが多く混じる。
- 明黄褐色 (10YR3/3) 砂質土。暗褐色 (10YR3/3) シルトが少量混じる。
- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。
- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (10YR3/3) 砂質土のレンズ状ブロックが混じる。
- 明黄褐色 (10YR3/3) 砂質土。暗褐色 (10YR3/3) シルトが少量混じる。
- 暗褐色 (10YR3/3) シルト。明黄褐色 (10YR3/3) 砂質土のレンズ状ブロックが混じる。

を検出した。南半分は、一辺4mを越える方形の竪穴式住居SC-204があり、北半には柱穴が密集する。あるいは、住居跡の床面が削平されているのかもしれない。なお、出土遺物は少ない(図145、図版44-2)。

(1) SC-204(図144)

主軸を西北西~東南東にふる一辺4mを越える方形の竪穴式住居と考えられる。埋土の残りはよくないが、床面は標高38.40m前後に想定できる。主柱穴は調査区外に存在すると考えられる。SC-368に切られ

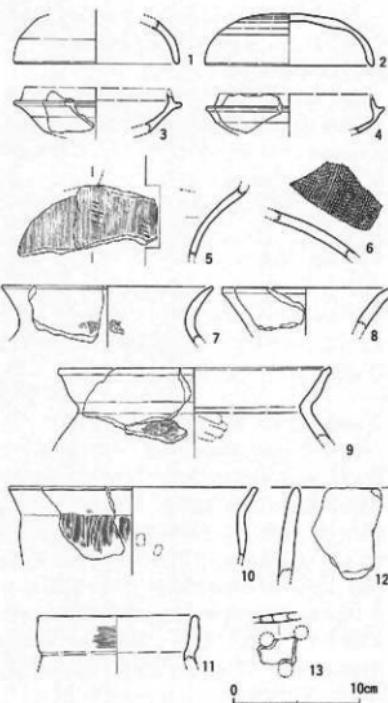


図149 4次調査VII区出土遺物実測図(縮尺1/4)

る。埋土出土遺物から2点が図化できた。1は土師器壞坏。2は花崗岩製敲石。その他に土師器の壊片が出土しており、古墳時代中・後期の竪穴式住居と考えられる。

(2) SC-368(図144)

SP-210・271が主柱穴を構成すると考えられる竪穴式住居である。SP-210は調査区西壁際で、SP-271は西壁土層断面で検出している。SC-204を切る。SP-210からは土師器壊片が1点出土し、古墳時代後期の

可能性が高い。

③ **SK-205** (図144)

SC-204南側を切る、幅約20cmの溝状土塗。埋土は黒褐色シルトで、深さ約15cm。出土遺物はない。

④ **SK-272** (図144)

調査区西壁で、II層下・SC-204埋土上に、別単位の遺構埋土を確認し、SK-272とした。長さ約1m・厚さ約10cm。平面的広がりは不明。

⑤ **SK-216** (図146)

埋土は暗褐色シルト。幅50~80cmを測るが、平面プランは不明。

⑥ **柱穴・小穴**

南半分では調査区西壁に沿ってSC-204の埋土を切り込む柱穴群が見られる。北半分では大小の柱穴が密集し、SP-261のように柱痕が見られる柱穴もある。出土遺物がないことから時期は不明。

(7) **VII区** (図146~148、図版41)

VII区は1号棟北の約30mの区間。やはりII層直下で遺構は検出されるが、西端ではアスファルト舗装面から50cm、東端では30cmの深さと、旧地形がかなり東に向かったことが窺える。西半は遺構がきわめてまばらで、柱穴が数基あるのみ。VI区から東に10m前後の地点は、住居跡の削平痕跡と判断した(SC-270)。この東に溝1条(SD-273)があり、再び遺構は柱穴が数基のみとまばらになる。ただし、VII区東端約7.5mは、竪穴式住居(SC-283~285)が重複し、遺物も出土した(図149、図版44-3)。

① **SC-270** (図147、図版41-2)

不規則な凹凸が見られ、その範囲の西側が直線的に画されることから、方形の竪穴式住居のはとんどが削平されてしまった痕跡と判断して、SC-270とした。規模などは不明。出土遺物もない。

② **SD-273** (図147、図版41-3)

SC-270の東、幅約1m・深さ約50cmの溝状の落込みである。埋土は1枚で、均質な黒褐色シルト。粘性が高く、しまりは弱い。遺物もほとんど含まず、流水の痕跡も認められないことから、2号棟南北のSD-1・41・286とも、1号棟南北のSD-181とも異なる。

③ **SC-283・284・285** (図122・148、図版41-4)

SD-273の西側3mほどは柱穴が数基あるのみだが、それ以東の約7.5mの範囲は、竪穴式住居が複数に重複する。平面で識別できなかったが、土層の観察

では異なる3基の竪穴式住居(SC-283・284・285)の存在を確認した。あるいはこれ以上の重なりがあるかもしれない。SC-283は一辺約4.7mの方形竪穴式住居。SC-284に切られる。床面は標高38.50m強。SC-284は検出幅わずか約1mで、竪穴式住居の隅部の検出と考えられる。床面は標高38.50m弱。SC-285は一辺3m以上の方形竪穴式住居。住居の西側をSC-283に切られ、不明な点が多い。床面は標高38.55m付近。SP-379・380(図版41-5)に主柱穴の可能性が考えられる。

遺物はSC-283・284・285で取り上げており、13点を図化した。1・2は須恵器の蓋、3・4は須恵器の壺。3は内傾する短い口縁をもち、口縁先端を欠損。4は底部から立ち上がりにかけての屈曲がやや強い。5は須恵器の横瓶。外面はタタキ後カキメ、内面に縱方向のナデが施される。6は須恵器の壺の肩部片で、外面はタタキ後に横方向のカキメ、内面には摩滅しているが青海波文の痕跡がわずかに残る。7~11は土師器壺。7・8は口縁部が緩やかに外反する。9は口縁部が内湾し、屈曲部外面に強い横ナデが施される。10は肩がわずかに張り、口縁部が外傾し、口縁端面はやや凹む。11は口縁が直立気味に立ち上がる。12・13は土師器の瓶である。12はやや外傾する口縁部である。13は底部片で、径11mmの円孔が3孔確認できる。

9のように古相を示すものも含まれるが、出土遺物の大半は、6世紀後半~7世紀初頭に位置づけられる。切り合ひ関係から最新のSC-284は、当該期に埋設したと考えられる。

④ **柱穴・小穴他**

VII区では、柱穴はまばらにしか存在しない。SP-275とSP-276は埋土の特徴等に共通点が見られることから欄列の可能性も考えられる。出土遺物は、SP-268で土師器片が出土するのみで、時期については不明。なお、人工的な遺構ではないが、SC-270の東側に、倒木によると推定される層序の乱れがある(図147)。

(8) 小 結

4次調査では、竪穴式住居や掘立柱建物などの、明らかな居住遺構を多数検出することができた。ほとんどが6世紀から7世紀初頭の遺構であり、先の3次調査で明らかになった溝の北西側に、古墳時代後期の集落が展開していたことになる。なお、10世紀代に下る遺構・遺物の出土もある。

iii 5次調査

5次調査は、4次調査区Ⅱ・Ⅲ区の西側に隣接する南北長約37m、幅0.7mの調査区である。調査が急を要した立会形式であったことと、先の調査の基準点設置個所に今回の調査区が設定されたことによって、正確な遺構の対応を期し難いことを、まず述べておかなくてはならない。

(1) 検出遺構 (図150)

北側の4次調査区Ⅲ区西側では、柱穴・小穴を数基検出したにとどまる。SP-6は柱間等の検討から、4次調査SP-127、5次調査SP-15とともに、掘立柱建物SB-361を構成すると考えられる。SP-9は4次調査SP-123と同一遺構。X=22以南では、竪穴式住居跡SC-8を検出した。4次調査SC-131にあたる。調査区東壁に沿って焼土および白色粘土塊が見られたが、SC-8の中央部に位置することから、別遺構に伴う可能性が考えられる。

4次調査Ⅱ区の西側では、最北部の4次調査SC-61・SX-62に対応する遺構は、残存状況不良で、明確には検出できなかった。北側で北東-南西方向の掘方のラインを確認し、SC-14としたものの、4次調査SC-61・SX-62と一連の竪穴式住居と考えるには、形状が歪である。SC-14内で検出したSP-10は、4次調査SP-64と対応して竪穴式住居SC-365の主柱穴を構成すると考えられる。

X=32あたりでは、4次調査SC-57・58にそれぞれ対応して、SC-16・17を検出した。ところが、この南の4次調査SC-55については、今回の調査で対応する遺構を確認できていない。4次調査SC-54についても、明らかに連続する遺構としては把握できず、該当する可能性のあるものとして、SC-19を識別した。ただし、その北にはSC-18を別に認識しており、4次調査でSC-54と一括した中に、別単位が存在した可能性もある。4次調査SC-53についても、SC-21が該当しそうだが、対応関係が判然としない。4次調査SC-51にいたっては、該当する遺構自体の存在が見あたらぬ。柱穴などは集中することから、遺構の上面が削平されている可能性がある。SP-24は4次調査SP-42とともに、竪穴式住居SC-367の主柱穴を構成すると考えられる。

(2) 出土遺物 (図151、図版44-4・5)

5次調査出土遺物からは18点を図化できた。1～3はSP-6出土。1は須恵器の蓋で、外縁に回転ヘラケズリが顯著。2は土師器の鉢。3は瓶の口縁部片で、口縁部に向かってやや外傾する。胴部は接合痕が顯著で、指押さえによって接合痕を消した後、縱方向のハケメが施される。遺物の所見からSP-6は6世紀前葉以降に位置づけられる。

4・5はSC-14出土。4は磨石。敲打痕がわずかに残る。5は土師質の壺である。10世紀代。その他図化していないが、土師器壺片が見られる。SC-14に対応する4次調査SC-61・SX-62では、5～6世紀の土師器・須恵器があり、5はSC-14埋土を振り込む別遺構に伴う可能性が高い。

6～9はSC-16・17出土である。6・7は須恵器の蓋である。6は焼成不良の蓋。8は須恵器横瓶の胴部片。外面にはカキメ調整、胴部内面は青海波文が施され、底部には指押さえが顯著に見られる。9は土師器壺の口縁部で、外縁に横ナデが施される。6世紀。その他図化していないが、古墳時代後期の土師器壺片、須恵器壺片が出土している。SC-16・17に対応する4次調査SC-57・58では、6世紀後半～7世紀初頭の遺物が出土しており、SC-16・17出土遺物に一致する。

10～17はSC-17・18・19出土。10は須恵器蓋の天井部で、外縁に回転ヘラケズリ。11・12は須恵器壺で、ともに先端が欠損。6世紀後葉。13は壺の底部片で、底部外面にカキメ調整が施される。14～16は土師器壺の口縁部。14は口縁部が直線的に外傾し、口縁端部はややむし。15・16は口縁部が緩やかに内湾しながら直立気味に立ち上がる。17は薄い板状の結晶片岩の剥片。SC-17は6世紀末～7世紀前葉の4次調査SC-57に、SC-19は7世紀前葉の4次調査SC-54に対応しており、5次調査SC-17・18・19出土の6世紀中頃～後葉の須恵器・土師器は、流れ込みと考える。

SP-2からは、須恵器・土師器片に混じり、18の二次焼成を受けた鰐の羽口が出土している。残存長8.3cm、外径7.3cm、孔径2.2cmを測る。胎土には1～3mm前後の砂礫を多量に含む。内側にはぶい赤褐色、外側にはぶい黄褐色～ぶい黄橙色、被熱部分は赤褐色に変色している。羽口の外表面は劣化しておらず、被熱

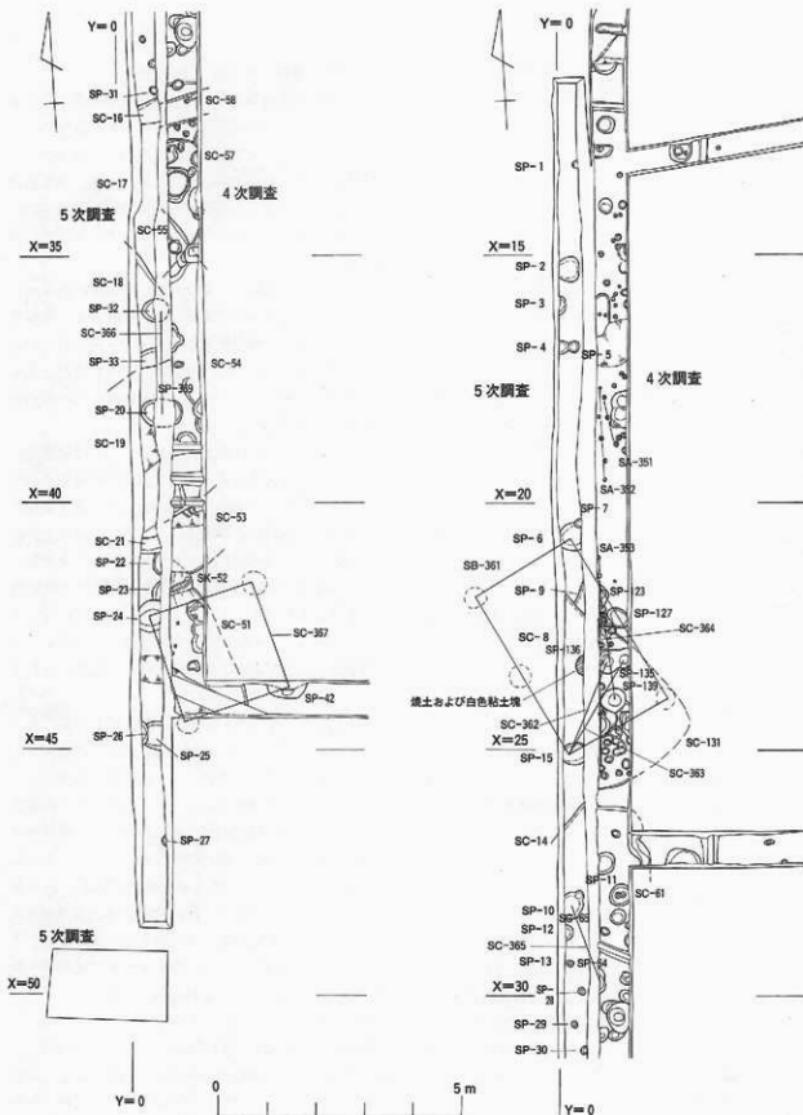


図150 4次調査・5次調査構造配置図（縮尺1/100）

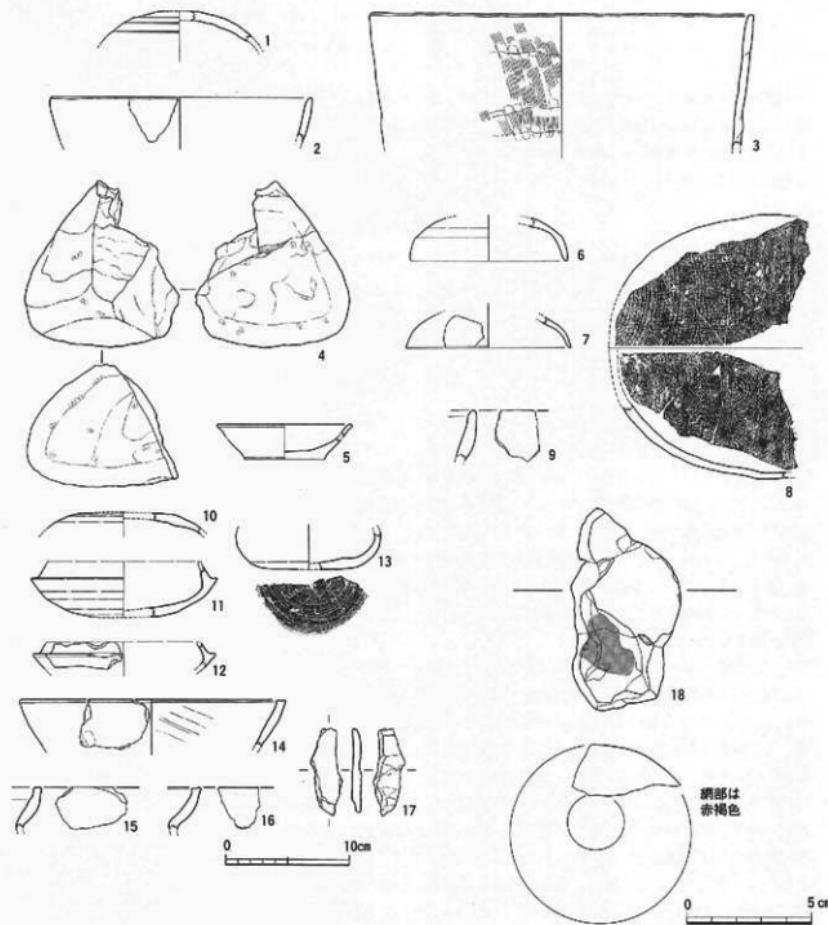


図151 5次調査出土遺物実測図（縮尺1/4、1/2）

部分が小範囲であることから、鍛冶炉外に取り付けられていた羽口の上半部にあたると考えられる¹²²。4次調査SC-55埋土中から鉄滓が出土していることから、6世紀末~7世紀前葉に調査区周辺に鍛冶炉が存在したと考えられる。

以上の他にSP-3、SP-10・11、SP-24から古墳時代後期の土師器片が少量出土している。

4 まとめ

桑原西稻葉遺跡3～5次調査では、古墳時代中・後期と古代の集落関係の遺構を確認できた。以下では、3次にわたる調査成果から、北吉井団地内における古墳時代・古代の集落について検討してまとめたい。

(1) 古墳時代中・後期の溝について

3次にわたる調査で、溝状遺構は少なくとも6条確認されている。そのうち3次調査SD-21(4次調査SD-1・41・286)、SD-22(3次調査SD-24)、SD-23の3条は、埋土に縞模様の砂礫層の堆積が見られるところ水路と考えられる。

出土遺物の検討から、SD-22は5世紀中頃～後葉、SD-23は6世紀中頃～後葉、SD-21は6世紀末～7世紀に使用されていたことが想定され、溝は同時併存しない。加えて、SD-22は溝内に段をもつことや土層断面から、2回の掘り直しが確認でき、SD-21も底面に段をもち、土層断面から2回の掘り直しが確認できる。以上の状況から、溝は埋没・掘り直しを繰り返しながら完全に埋没すると、新たな場所に掘削されたと考えられる。

さて、水路と考えられる3条の溝は、3次調査I区で北側延長が確認できていないことから、北吉井団地内中央付近で大きく東に方向を転じていることになる。4次調査V区東端や同III区東端では、地山であるIV層上面のレベルが上昇しており、北東方向に旧地形は高くなっていたことになる。地形分類では低位段丘面から現世扇状地面との境付近に位置し¹⁰、溝は低位段丘面の掘付近に掘削されていたものと考えられる。また、溝を灌漑目的とした場合、水田面は北吉井団地の東から南に展開していたと想定される。

(2) 古墳時代後期の集落について

3～5次調査では、竪穴式住居13棟前後・掘立柱建物2棟前後・土壙7基・柱穴多数を確認した。しかし、調査区は幅約75cm、4・5次調査が隣接する地点でも幅1.5m程であり、立柱痕が認められる柱穴が多数あるものの、竪穴式住居や掘立柱建物として復元できたものは一部にしかすぎない。こうした点を踏まえた上で、4次調査検出遺構を中心に、若干の検討を加

える。

古墳時代後期の遺構は、4次調査V区東端付近でも密集状況が窺えるが、4次調査II・III区が最も密度が高い。出土遺物や遺構の切り合い関係から竪穴式住居・掘立柱建物を整理すると、調査区内で最も早く営まれるのは、6世紀前葉～中頃に位置づけられるSC-51である。その後、6世紀後葉にSC-58・53・364が、6世紀末～7世紀初頭にSC-57・55が、7世紀前葉にSC-54が営まれる。団地北端のV区では、6世紀後半以前にSC-283・285が、6世紀後半～7世紀初頭にSC-284が営まれる。その他にSC-61・131・204・270・365・368、SB-361(SC-362・363)があるが、出土遺物や切り合い関係から6世紀代であるものの、詳細な時期決定は難しい。ただ、住居の時間幅や遺構の密集度から、団地南西のII・III区では、2～3棟の竪穴式住居が同時併存していた状況が想定される。

ところで、5次調査SP-2からは籠の羽口片が出土しており、4次調査SC-55埋土中に、1点ながら鉄滓が出土している。籠の羽口が出土したSP-2付近は、竪穴式住居が見られず、遺構の密集度がやや低く、周辺で鍛冶の行われていた可能性が高い。SC-55は6世紀末～7世紀初頭に営まれていることから、鍛冶炉も前後する時期に存在したと考えられる。ただし、後世の削平を受けているとは言え、鉄滓の量は少なく、規模は大きくなかった。古墳時代後期には、一般的な集落で村方鍛冶が定着し始めており、北吉井団地内の6世紀末～7世紀初頭前の集落でも、やはり同様な状況にあったことを示していると言えよう。

(3) 古代の集落について

4次調査ではSP-310、SC-54～58埋土中から、5次調査ではSC-14(4次調査SC-61・SX-62に対応)の埋土中から10世紀の土師器壺が各1点出土している。10世紀の遺物は、上記の3点のみであるが、出土場所は全て4次調査II区北側に集中する。4次調査SP-310では、確実に柱穴内から出土しており、周辺に掘立柱建物等が存在していた可能性が考えられる。

また、4次調査III区では、杭を打ち込んだ程度の簡単な構造を3列(SA-351・352・353)確認している。柱穴内からの出土遺物はないが、SA-353はSC-131の

埋土を掘り込み、古墳時代後期以降に位置づけられる。各々の構列の方向は同一でないものの、柱間隔は約50cmで、埋土は黒褐色シルト主体と共通することから、構列群は近接した時期のものと考えられる。4次調査SP-310の埋土は、黒褐色シルトで、古墳時代の遺構埋土と比べて砂礫を含まず、粘性が強く、この特徴は構列を構成する柱穴と共通する。3~5次調査では、7世紀以降の遺物は10世紀に限られており、構列群が10世紀代のものである可能性が高い。

北吉井団地周辺では、団地北西に位置する桑原西稻葉遺跡1次調査で8世紀代の溝が、樽味四反地遺跡で10世紀代の溝が確認されているのみで^{注1}、今回の調査は団地周辺の古代末の集落を知る上での貴重な資料と言える。

SP一覧

3次調査

I 区：10基 (SP-1・3~11)

II 区：3基 (SP-25~27)

欠番：SP-2・12~20

4次調査

I 区：49基 (SP-2~40・42~50・301)

II 区：45基 (SP-56・60・63~75・303~310・339

~350・369~378)

III 区：82基 (SP-83~102・104~125・127~130・

132・133・135・137~162・312~318)

IV 区：7基 (SP-76~82)

[注]

1 村上恭道専門員に御教示頂いた。

2 村上恭道専門員に御教示頂いた。

3 鹿島愛彦・高橋治郎 1980：因國松山平野の環境地質学的研究Ⅰ、松山平野とその周辺の地質、愛媛大学教養部紀要、自然科学、9~1

4 梅木謙一 1992：桑原地区の遺跡・松山市文化財調査報告書 26

V 区：34基 (SP-168~180・182~188・190~203)

VI 区：63基 (SP-163~167・206~215・217~263・271)

VII 区：35基 (SP-264~269・274~282・319~329・334~338・379~382)

欠番：SP-126・134・136・286~300・302・311・330~333・354~360

5次調査（調査区割は4次調査を準用）

II 区：16基 (SP-10~13・15・20・22~31)

III 区：8基 (SP-1~7・9)

表5 桑原西稻葉遺跡3~5次調査出土遺物観察表

図124 3次調査I区出土遺物

出土位置 遺構・層位・地区	種別	器種	部位	調査・その他の特徴	実測 番号
1 SP1 3-I 瓢箪器 壺蓋 天井部 内外面同色ナダ。内外面灰白色。1~2mmの長石・赤色粒少量含む。	1001				
2 SP9 3-I 瓢箪器 壺身 受部 内外面同色ナダ。外側灰色、内側灰白色。0.5mm以下の砂粒少量含む。	1005				
3 SP1 3-I 瓢箪器 高环 片部 長持2段・透かし3方向。外側灰褐色、内面青灰色。内面ラメ入り・ナダ。内外面灰白色。	1002				
4 SP4 3-I 瓢箪器 壺 旗部 外面縦溝文タスキ。内面青灰色。内外面灰白色。0.5mm以下の長石少量含む。	1003				
5 SP6 3-I 土師器 高环 旗部 外面横ナダ。内外面灰白色。1mm以下の長石少量含む。	1004				
6 - 盆器 3-I 土師器 壺 口縁 外面横ナダ。内面横ナダ・内面横ハケメ縦ナダ剥。内外面に赤い模様。1~3mmの長石・石英多く含む。	1006				

図127~128 3次調査SD-21出土遺物

出土位置 遺構・層位・地区	種別	器種	部位	調査・その他の特徴	実測 番号
1 SD21 中層 3-II 瓢箪器 壺蓋 口縁 内外面同色ナダ。外側灰色、内側灰白色。0.5mm以下の長石少量含む。	1017				
2 SD21 中層 3-II 瓢箪器 壺蓋 天井部 内外面同色ナダ。内外面灰白色。0.5~1mmの長石・石英少量含む。	1007				
3 SD21 中層 3-II 瓢箪器 壺蓋 口縁 内外面同色ナダ。内側灰白色。1~2mmの長石少量含む。	1012				
4 SD21 中層 3-II 瓢箪器 壺蓋 天井部 外面横ナダ・タスキ。内外面灰色。内面青灰色。1~2mmの砂粒少量含む。	1079				
5 SD21 中層 3-II 瓢箪器 壺身 全形 内外面同色ナダ・タスキ。内外面灰白色。外側紫灰白色、内側灰白色。1~2mmの長石少量含む。	1008				
6 SD21 中層 3-II 瓢箪器 壺身 受部 外側灰褐色、内側灰白色。0.5~1mmの長石少量含む。	1016				
7 SD21 中層 3-II 瓢箪器 壺身 口縁 外面縦剥ハケメ縦ナダ。内外面灰白色。1~2mmの長石少量含む。	1020				
8 SD21 中層 3-II 瓢箪器 壺身 旗部 外面横ナダ・タスキ。内外面灰白色。内外面灰白色。0.5~2mmの長石少量含む。	1077				
9 SD21 中層 3-II 瓢箪器 壺身 旗部 内外面同色ナダ・タスキ。内外面灰白色。1~3mmの長石少量含む。	1078				
10 SD21 中層 3-II 瓢箪器 高环 旗部 外面横ナダ・タスキ。内外面灰白色。内外面灰白色。1~3mmの長石・石英含む。	1011				
11 SD21 中層 3-II 瓢箪器 高环 旗部 内外面同色ナダ。内外面灰白色。0.5~1mmの長石少量含む。	1009				
12 SD21 中層 3-II 瓢箪器 旗 口縫 内外面同色ナダ。内侧面灰白色。1~2mmの長石少量含む。	1013				
13 SD21 中層 3-II 瓢箪器 旗 脊輪 外面カキメ、内面横剥ナダ。内外面灰白色。1~2mmの長石少量含む。	1019				
14 SD21 中層 3-II 瓢箪器 旗 旗部 外面カキメ・カヌメ、内面横剥ナダ。内外面灰白色。1~5mmの長石・赤色粒少量含む。生焼け。	1010				
15 SD21 中層 3-II 土師器 壺 底部 内外面同色。内面ナダ。外側浅黄褐色、内面橙色。1~2mmの長石・石英少量含む。他質。	1080				
16 SD21 中層 3-II 土師器 高环 胸腰部 内外面同色ナダ。外側浅黄褐色、内面橙色。1~2mmの長石・石英少量含む。	1014				
17 SD21 中層 3-II 土師器 壺 口縫 内外面ナダ。外面に赤い模様、内面橙色。1~2mmの長石・石英・雲母少量含む。	1015				
18 SD21 中層 3-II 土師器 壺 眼部 外面横剥ハヌメ。内面カキメ、外側暗褐色。内面に赤い模様。1~2mmの長石・石英・雲母少量含む。	1018				
19 SD21 中層西半 瓢箪器 壺蓋 天井部 内外面同色ナダ・タスキ。内外面灰白色。内面青灰色。1~2mmの長石少量含む。	1049				
20 SD21 中層西半 瓢箪器 壺蓋 天井部 内外面同色ナダ・タスキ。内外面灰白色。内面青灰色。0.5~1mmの長石少量含む。	1048				
21 SD21 中層西半 瓢箪器 壺身 口縫 外面横剥ハタケメ縦ナダ。内外面灰白色。内面青灰色。0.5~1mmの長石少量含む。	1052				
22 SD21 中層西半 瓢箪器 壺身 底部 外面横剥ハタケメ縦ナダ。内面青灰色。内面青灰色。0.5~1mmの長石少量含む。	1050				
23 SD21 中層西半 土師器 壺 口縫 内外面ナダ。内外面青灰色。1~2mmの長石少量含む。	1051				
24 SD21 下層 3-II 瓢箪器 壺蓋 口縫 内外面同色ナダ。内外面灰白色。1~2mmの長石少量含む。	1028				
25 SD21 下層 3-II 瓢箪器 壺身 口縫 内外面灰白色。1~3mmの長石・石英少量含む。	1026				
26 SD21 下層 3-II 瓢箪器 壺身 底部 内外面同色ナダ・タスキ。内面青灰色。内面灰白色。1~3mmの長石・石英少量含む。	1021				
27 SD21 下層 3-II 瓢箪器 壺身 旗部 外面横剥ハタケメ縦ナダ。内外面同色ナダ。内外面灰白色。1~2mmの長石・石英少量含む。	1082				
28 SD21 下層 3-II 瓢箪器 壺身 旗部 外面横剥ハタケメ縦ナダ。内面青灰色。内面灰白色。1~2mmの長石少量含む。	1022				
29 SD21 下層 3-II 瓢箪器 壺身 旗部 外面横剥ハタケメ縦ナダ。内面青灰色。内面灰白色。1~2mmの長石少量含む。	1023				
30 SD21 下層 3-II 瓢箪器 高环 口縫 外面横剥ナダ。内外面灰白色。内面青灰色。1~2mmの砂粒少量含む。	1030				
31 SD21 下層 3-II 瓢箪器 高环 口縫 外面横剥ナダ。内外面灰白色。内面青灰色。1~2mmの長石・石英少量含む。	1027				
32 SD21 下層 3-II 瓢箪器 高环 旗部 外面横剥ナダ・タスキ。内外面灰白色。1~2mmの長石・石英少量含む。	1029				
33 SD21 下層 3-II 瓢箪器 高环 旗部 内外面同色ナダ。内外面灰白色。1~2mmの長石・石英少量含む。	1034				
34 SD21 下層 3-II 瓢箪器 旗 口縫 外面推進、内面ナダ。外面黄褐色、内面灰白色。1~2mmの長石・石英少量含む。	1081				
35 SD21 下層 3-II 瓢箪器 横腹 旗部 外面横剥ハタケメ縦ナダ。内面青灰色。内面青灰色。1~2mmの長石・石英少量含む。	1031				
36 SD21 下層 3-II 土師器 旗 口縫 内外面ナダ。内外面に赤い模様。1~3mmの長石・石英・黒色粒少量含む。	1034				
37 SD21 下層 3-II 土師器 旗 口縫 内外面ナダ。外側赤色、内面に赤い模様。1~3mmの長石・石英少量含む。	1033				
38 SD21 清底砂質土 瓢箪器 高环 壺蓋 天井部 内外面同色ナダ。内外面灰白色。1~3mmの長石・石英少量含む。	1042				
39 SD21 清底砂質土 瓢箪器 壺蓋 口縫 内外面同色ナダ。内外面灰白色。1~2mmの長石・石英少量含む。	1045				
40 SD21 清底砂質土 瓢箪器 壺身 口縫 内外面同色ナダ・タスキ。内面横剥ナダ。内外面灰白色。1mm以下の長石・雲母少量含む。	1046				
41 SD21 清底砂質土 瓢箪器 壺身 口縫 内外面同色ナダ。内面青灰色。0.5~1mmの長石・石英少量含む。やや軟質。	1040				
42 SD21 清底砂質土 瓢箪器 壺身 口縫 内外面同色ナダ。内外面灰白色。1~3mmの長石・石英少量含む。	1041				
43 SD21 清底砂質土 瓢箪器 壺身 口縫 内外面同色ナダ。内外面灰褐色。内面青灰色。0.5~1mmの長石・石英少量含む。やや軟質。	1044				
44 SD21 清底砂質土 瓢箪器 高环 旗部 外面横剥ナダ。内面青灰色。1~3mmの長石少量含む。	1047				
45 SD21 清底砂質土 土師器 壺 完形 内面ナダ。内外面灰白色。1~2mmの長石・石英含む。やや軟質。	1043				
46 SD21 11層 3-II 瓢箪器 壺蓋 口縫 内外面同色ナダ。外側灰色、内面灰白色。1~2mmの長石少量含む。	1037				
47 SD21 11層 3-II 瓢箪器 壺身 底部 外面横剥ハタケメ縦ナダ。内面同色ナダ。内面灰白色。0.5~1mmの長石少量含む。	1036				
48 SD21 11層 3-II 瓢箪器 壺身 底部 外面横剥ナダ。内面同色ナダ。内面灰白色。0.5~1mmの長石含む。	1035				

49	SD21	11層	3-II	土師器	鉢	口縁	外面黒ハケメ・ナデ、内面ナデ。外面に赤い模様。内面模様。1~3mmの長石・石英・赤色鉱・雲母含む。	1039
50	SD21	11層	3-II	石器	石器	鋸刃	鋸刃。	1038

図129 3次調査SD-22出土遺物

出土位置	種別	器種	部位	調査・その他特徴	実測番号
遺跡 層位 地区					
1 SD22 上層 3-II	土師器	高杯	口縁	外面ナデ、内面模ハケメ後ナデ。内面後赤褐色。1~2mmの長石・石英・雲母含む。	1035
2 SD22 上層 3-II	土師器	高杯	口縁	内面模ナデ。内面模色。0.5~1mmの長石・石英少含む。	1033
3 SD22 上層 3-II	土師器	高杯	脚部	外面ミガキ・ナデ。内面模色。1~2mmの長石・石英含む。	1036
4 SD22 上層 3-II	土師器	壺	脚部	外面模後赤褐色。1~2mmの長石・石英・雲母含む。	1037
5 SD22 中層 3-II	土師器	高杯	口縁	外面1ガキ後ナデ、内面ナデ。内面に赤い模様。1~2mmの長石・石英少含む。	1034
6 SD22 中層 3-II	土師器	壺	肩部	内面模ナデ。内面模後赤褐色。内面灰白色。1~3mmの長石・石英少含む。	1038
7 SD22 下層 3-II	土師器	高杯	口縁	外面ナデ・指擦さえ。内面ナデ。外面上赤褐色。内面模色。0.5~1mmの長石少含む。	1039
8 SD22 下層 3-II	土師器	高杯	脚部	内面模色。内面模後赤褐色。1~2mmの長石少含む。やや破損。	1036
9 SD22 下層 3-II	土師器	高杯	口縁	内面模ナデ。外面上赤褐色。内面模色。0.5~1mmの長石含む。	1035
10 SD22 下層 3-II	土師器	高杯	環状	内面模ナデ。内面模後赤褐色。1~2mmの長石・石英少含む。	1037
11 SD22 下層 3-II	土師器	高杯	脚部	内面模ナデ。内面模後赤褐色。1~2mmの長石・石英少含む。	1038
12 SD22 下層 3-II	土師器	壺	脚部	内面模ナデ。内面模後赤褐色。0.5~1mmの長石含む。	1039
13 SD22 下層 3-II	土師器	壺	脚部	内面模ナデ。内面模後赤褐色。0.5~1mmの長石含む。	1036
14 SD22 下層 3-II	土師器	鉢	底部	外面タカタキモダ消しナデ。内面ナデ。内面模後赤褐色。1~2mmの長石・石英少含む。	1031
15 SD22 世耕前輪中	土師器	壺	脚部	外面ナデ。内面指擦さえ。外面灰白色。内面に赤い模様色。1~3mmの長石・石英・雲母少含む。	1030
16 SD22 上層 3-II	鉄器	釘?	-	表面反光。先端欠損。	1035

図130 3次調査SD-23出土遺物

出土位置	種別	器種	部位	調査・その他特徴	実測番号
遺跡 層位 地区					
1 SD23 12層	須恵器	环甌	口縁	外面圓輪ヘラケツリ・ナデ、内面模輪ナデ。外面灰褐色。内面模灰褐色。0.5~1mmの長石・石英少含む。	1039
2 SD23 中層~下層	須恵器	环甌	口縁	外面圓輪ヘラケツリ・ナデ、内面模輪ナデ。内面模後赤褐色。1~2mmの長石少含む。	1032
3 SD23 清底砂利	須恵器	环甌	体部	外面圓輪ヘラケツリ・ナデ。外面灰褐色。内面模灰褐色。1~2mmの長石少含む。	1037
4 SD23 3層	須恵器	环甌	口縁	外面ナデ。内面灰褐色。1~2mmの長石少含む。	1037
5 SD23 須恵器等土	土師器	高杯	脚部	内面模ナデ。外面模色。内面模赤褐色。0.5~1mmの長石少含む。	1035
6 SD23 須恵器等土	土師器	高杯	脚部	外面模の板ナデ。内面模指擦さえ。ナデ。外面模赤褐色。1~2mmの長石・石英少含む。	1036
7 SD23 清底砂利上層	土師器	高杯	脚部	内面ナデ。内面ケツリ・ナデ。外面模色。内面に赤い模様色。1~3mmの長石・石英少含む。	1038
8 SD23 上層	土師器	鉢	口縁	内面模ナデ。外面模色。内面模模色。積土層に0.5mm以下の長石少含む。	1031
9 SD23 清下半層	土師器	壺	口縁	外面ナデ・模ハケメ・内面ナデ。外面模赤褐色。内面に赤い模様色。0.5~3mmの長石・石英含む。やや破損。	1070
10 SD23 清下半層	土師器	壺	口縁	内面模ナデ。外面模色。内面に赤い模様色。1~2mmの長石・石英含む。	1064
11 SD23 中層~下層	土師器	壺	口縁	内面ナデ。内面模色。1~2mmの長石・石英・雲母多く含む。	1063
12 SD23 中層~下層	土師器	壺	脚部	外面模指擦さえ。内面模後ハケメ。外面模色。0.5~3mmの長石・石英・雲母多く含む。	1062
13 SD23 上層	石器	石器	台石	無効。錐形。	1036

図131 3次調査I区直層出土遺物

出土位置	種別	器種	部位	調査・その他特徴	実測番号
遺跡 層位 地区					
1 - 田畠 3-II	須恵器	环甌	口縁	内面圓輪ナデ。外面灰白色、内面模灰褐色。0.5~1mmの長石少含む。	1033
2 - 田畠 3-II	須恵器	环甌	脚部	内面圓輪ナデ。外面灰褐色、内面模灰褐色。1mm以下の移絆少含む。	1076
3 - 田畠 3-II	土師器	高杯	口縁	内面ナデ。内面模前筋。外面上に赤い模様色、内面模色。1mm以下の長石・石英少含む。	1074
4 - 田畠 3-II	土師器	高杯	脚部	内面模ナデ。内面模後赤褐色。1~2mmの長石・石英少含む。	1075
5 - 田畠 3-II	土師器	高杯	口縁	外面模色。内面に赤い模様色。1mm以下の長石・石英少含む。	1072
6 - 田畠 3-II	土師器	高杯	脚部	内面ナデ。内面ケツリ模ナデ。外面模色。内面模色。0.5mm以下の長石・石英少含む。	1073
7 - 田畠 3-II	土師器	壺	口縁	内面模前筋。外面上に赤い模様色、内面模色。1~2mmの長石・石英含む。	1094

図132 4次調査I区出土遺物

出土位置	種別	器種	部位	調査・その他特徴	実測番号
遺跡 層位 地区					
1 SD1 4-I	須恵器	环甌	全形	外面圓輪ヘラケツリ・ナデ、内面圓輪ナデ。外面模前筋。1~2mmの長石・石英少含む。	1032
2 SD41 上層 4-I	須恵器	壺	口縁	内面圓輪ナデ・外面灰白色。内面模灰白色。1mm以下の長石少含む。	1033
3 SD41 上層 4-I	須恵器	壺	口縁	外面模灰白色。外面模前筋ナデ。外面灰褐色、内面模灰褐色。0.5mm以下の長石少含む。	1004
4 SD41 上層 4-I	土師器	壺	口縁	内面模ナデ。外面模前筋色。内面に赤い模様色。2~4mmの長石・石英・雲母少含む。	1005
5 SD41 下層 4-I	須恵器	环甌	口縁	内面圓輪ヘラケツリ・ナデ・内面圓輪ナデ。外面模前筋色。内面模灰褐色。1~2mmの長石・石英・雲母少含む。	1011
6 SD41 F型 4-I	須恵器	环甌	口縁	外面圓輪ヘラケツリ・ナデ・内面圓輪ナデ。外面模前筋色。内面模灰褐色。1mm以下の長石少含む。	1036
7 SD41 F型 4-I	須恵器	环甌	全形	外面圓輪ヘラケツリ・ナデ・内面圓輪ナデ。外面模前筋色。1mm以下の長石少含む。	1010
8 SD41 F型 4-I	須恵器	环甌	口縁	外面圓輪ナデ。外面模灰白色。1mm以下の長石少含む。	1007
9 SD41 F型 4-I	須恵器	环甌	口縁	外面圓輪ヘラケツリ・ナデ・内面圓輪ナデ。外面模灰褐色。0.5~1mm以下の長石多く含む。	1008
10 SD41 F型 4-I	須恵器	高杯	脚部	内面模前筋ナデ。外面模灰褐色。1~2mmの長石含む。	1012
11 SD41 F型 4-I	須恵器	壺	脚部	外面圓輪ナデ。外面模灰褐色。内面灰褐色。1mm以下の長石少含む。	1009

12	SD41	F層	4-I	頭部	全	口縫	外面部回転ナデ。内面部灰色。0.5mm以下の長石少含む。	1013
13	SD41	下層	4-I	土顎部	裏	口縫	外面部に赤い褐色、内面部に赤い褐色。1~2mmの長石・石英・雲母少含む。	1014
14	SD41	F層	4-I	土顎部	裏	脚部	外面部ハケメ、内面部ハケメ・ナデ。外側に赤い褐色、内側に赤い褐色。1~2mmの長石・石英少含む。	1015
15	SC51	4-I	頭部	環	天津部	外面部回転ナデ。内面部灰色。1~2mmの長石・石英少含む。	1017	
16	SC51	4-I	頭部	環	天津部	外面部回転ナデ。内面部灰色。1~2mmの長石・石英少含む。	1016	
17	SC51	4-I	頭部	環	天津部	口縫に内面回転ナデ。内面部灰色。1mm以下の長石・石英少含む。	1018	
18	SC51	4-I	頭部	裏	口縫	外面部ナデ。外面部に赤い褐色。1~3mmの長石・石英多く含む。	1018	
19	SP15	4-I	頭部	環	口縫	外面部回転ナデ。内面部回転ナデ。外面部灰白色。1mm以下の長石少含む。	1064	

図137 4次調査Ⅲ区出土遺物

出土位置					調整・その他特徴				実測番号	
遺構	層位	地区	種別	器種	部位	形態	表面状況			
1	SC54	4-II	頭部	環	全形	外面部回転ナデ。内面部灰色。1~3mmの長石少含む。	1026			
2	SC54	4-II	頭部	環	口縫	外面部回転ナデ。内面部灰白色。1mm以下の長石少含む。	1024			
3	SC54	4-II	頭部	環	口縫	外面部回転ナデ。内面部回転ナデ。内面部灰色。1mmの長石少含む。	1025			
4	SC54	4-II	頭部	環	口縫	外面部回転ナデ。内面部青灰色。内面部灰白色。0.5mm以下の長石少含む。	1019			
5	SC54	4-II	頭部	環	口縫	外面部回転ナデ。内面部灰白色。1mm以下の長石少含む。	1020			
6	SC54	4-II	頭部	環	口縫	外面部回転ナデ。内面部赤褐色。1mm以下の長石少含む。	1031			
7	SC54	4-II	頭部	環	体部	外面部回転ナデ。内面部回転ナデ。内面部灰白色。1~2mmの長石・石英少含む。	1028			
8	SC54	4-II	頭部	環	体部	外面部回転ナデ。内面部回転ナデ。外面部灰白色。内面部灰白色。1~2mmの長石少含む。	1029			
9	SC54	4-II	頭部	环	口縫	外面部回転ナデ。内面部灰白色。1~4mmの長石・石英少含む。	1021			
10	SC54	4-II	頭部	環	上半部	外面部回転ナデ。内面部灰白色。内面部青灰色。1~2mmの長石少含む。	1027			
11	SC54	4-II	土顎部	高环	脚部	外面部指さし、内面部ナデ。外面部橙色、内面部に赤い褐色。1~2mmの長石・石英少含む。	1022			
12	SC54	4-II	土顎部	环	口縫	外面部ナデ。外面部に赤い褐色、内面部紅色。1mm以下の長石少含む。	1030			
13	SC54	4-II	土顎部	环	口縫	外面部に赤い褐色。1~3mmの長石・石英多く含む。	1033			
14	SC54	4-II	石鈴	底石	砂岩			1023		
15	SC54	4-II	石鈴	底石	重量	重量9.4g		1032		
16	SC57	4-II	頭部	環	天津部	外面部回転ナデ。外面部灰白色。内面部灰白色。1~2mmの長石少含む。	1038			
17	SP56 R1	R1	4-II	頭部	環	天津部	外面部回転ナデ。内面部灰白色。外面部青灰色。0.5mm以下の長石少含む。	1001		
18	SC54	4-II	頭部	環	完形	天津部	外面部回転ナデ。内面部灰白色。1~2mmの長石・石英少含む。	1035		
19	SC54~58	4-II	頭部	環	口縫	外面部回転ナデ。内面部回転ナデ。内面部灰白色。1~2mmの長石少含む。	1034			
20	SC54~58	4-II	頭部	環	体部	外面部回転ナデ。内面部回転ナデ。外面部灰白色。内面部灰白色。1~2mmの長石少含む。	1036			
21	SX62	4-II	頭部	裏	天津部	外面部カキメ、内面部波波文。外面部灰黄色。内面部灰白色。1mm以下の長石少含む。	1039			
22	SP66	4-II	土顎部	裏	天津部	外面部横ナデ。外面部浅黄褐色、内面部に赤い褐色。1mm以下の長石少含む。	1065			
23	SP310	4-II	土顎部	环	底部	外面部ナデ。外面部灰白色。内面部灰白色。1~2mmの長石少含む。	1037			

図140 4次調査Ⅲ区出土遺物

出土位置					調整・その他特徴				実測番号
遺構	層位	地区	種別	器種	部位	形態	表面状況		
1	SP123	4-II	頭部	環	脚部	外面部回転ナデ。外面部黄褐色、内面部灰白色。0.5mm以下の長石少含む。	1066		
2	SP123	4-II	土顎部	裏	口縫	外面部ナデ。外面部に赤い褐色、内面部に赤い褐色。1~2mmの長石多く含む。	1067		
3	SP129	4-II	頭部	環	天津部	外面部回転ナデ。内面部カキメ・ナデ、内面部回転ナデ。内面部青灰色。1mm以下の長石少含む。	1070		
4	SP129	4-II	頭部	環	口縫	外面部回転ナデ。内面部回転ナデ。0.5mm以下の長石少含む。	1069		
5	SP129	4-II	頭部	環	天津部	外面部回転ナデ。外面部灰褐色、内面部青灰色。0.5mm以下の長石少含む。	1068		
6	SP129	4-II	土顎部	环	口縫	外面部ナデ。外面部に赤い褐色、内面部灰褐色。1~2mmの長石多く含む。	1071		
7	SP136	4-II	頭部	裏	脚部	外面部タキ、内面部波波文。外面部灰褐色。1mm以下の長石少含む。	1072		
8	SP145	4-II	頭部	環	天津部	外面部回転ナデ。外面部灰褐色、内面部灰白色。0.5mm以下の長石少含む。	1073		
9	SP145	4-II	頭部	環	口縫	外面部回転ナデ。内面部回転ナデ。外面部灰白色。1mm以下の長石少含む。	1074		

図141 4次調査Ⅲ区出土遺物

出土位置					調整・その他特徴				実測番号
遺構	層位	地区	種別	器種	部位	形態	表面状況		
1	SD286	4-N	頭部	環	全形	外面部回転ナデ。内面部カキメ・ナデ。内面部回転ナデ。内面部灰褐色。1mm以下の長石少含む。	1057		
2	SD286	4-N	頭部	環	全形	外面部回転ナデ。内面部カキメ・ナデ。内面部回転ナデ。内面部灰褐色。1~2mmの長石少含む。	1056		
3	SD286	4-N	頭部	環	全形	外面部回転ナデ。内面部カキメ・ナデ。内面部回転ナデ。外面部灰褐色、内面部灰白色。1mm以下の長石少含む。	1055		
4	SD286	4-N	頭部	環	口縫	外面部回転ナデ。外面部灰褐色。0.5mm以下の長石少含む。	1059		
5	SD286	4-N	頭部	環	口縫	外面部ナデ。内面部灰褐色。1~2mmの長石少含む。	1060		
6	SD286	4-N	頭部	環	口縫	外面部回転ナデ。内面部灰褐色。1~2mmの長石少含む。	1054		
7	SD286	4-N	頭部	環	天津部	外面部回転ナデ。内面部回転ナデ。内面部定方向ナデ。外面部灰褐色。1~2mmの長石少含む。	1053		
8	SD286	4-N	土顎部	裏	底部	外面部ナデ。内面部灰褐色。1~2mmの長石少含む。軟質。	1058		
9	SD286	4-N	土顎部	環	外面部	外面部灰褐色。1~2mmの長石少含む。やや軟質。	1062		
10	SD286	4-N	土顎部	裏	脚部	外面部ハケメ。内面部カキメ。外面部に赤い褐色、内面部灰褐色。1~3mmの長石・石英多く含む。	1061		

図142 4次調査Ⅲ区出土遺物

11	SD286	4-N	石器	台石	砂岩。	1063
図143 4次調査V区出土遺物						
出土地点 遺構・層位 地区	種別	器種	部位		調査・その他特徴	実測番号
1 SP188 4-V	須恵器	环身	底部	内外面灰白色。1~3mmの長石少量含む。		1075
図145 4次調査V区出土遺物						
出土地点 遺構・層位 地区	種別	器種	部位		調査・その他特徴	実測番号
1 SC204 4-V	土師器	高坏	坏底部	内面ナメ。外面に赤い黄褐色、内面暗褐色。1~2mmの長石・石英・雲母少量含む。		1076
2 SC204 4-V	石器	磨石		花崗岩。		1077
図149 4次調査IV区出土遺物						
出土地点 遺構・層位 地区	種別	器種	部位		調査・その他特徴	実測番号
1 SC283-284-285	須恵器	环身	口縁	内外面灰白色。外表面灰色、内面灰白色。1mm以下の長石多く含む。		1040
2 SC283-284-285	須恵器	环身	全形	外表面灰白色。外表面ナメ。内面灰白色。1~2mmの長石少量含む。		1044
3 SC283-284-285	須恵器	环身	受部	外表面灰白色。外表面ナメ。内面に赤い黄褐色。1~2mmの長石・石英少量含む。		1042
4 SC283-284-285	須恵器	环身	受部	外表面灰白色。外表面ナメ。内面灰白色。1~2mmの長石少量含む。		1045
5 SC283-284-285	須恵器	横瓶	肩部	外表面灰白色。外表面ナメ。内面灰白色。1~2mmの長石少量含む。		1043
6 SC283-284-285	須恵器	壺	肩部	内面ナメ。外表面灰色、内面灰白色。1mm以下の長石多く含む。		1041
7 SC283-284-285	土師器	壺	口縁	外表面灰白色。内面ナメ。内面灰白色。1mm以下の長石・石英少量含む。		1049
8 SC283-284-285	土師器	壺	口縁	内面ナメ。外面上に赤い褐色、内面淡黄褐色。1~2mmの長石・石英・雲母少量含む。		1051
9 SC283-284-285	土師器	壺	口縁	外表面灰白色。内面ナメ。内面灰白色。1~2mmの長石・石英・雲母多く含む。		1048
10 SC283-284-285	土師器	壺	口縁	外表面灰白色。内面ナメ。指捺え。外面上に赤い褐色、内面褐色。1~2mmの長石・石英少量含む。		1047
11 SC283-284-285	土師器	壺	口縁	外面上に赤い褐色、内面灰褐色。1mm以下の長石少量含む。		1050
12 SC283-284-285	土師器	壺	口縁	内面ナメ。外表面灰色、内面褐色。1~2mmの長石少量含む。		1046
13 SC283-284-285	土師器	壺	底部	内面ナメ。外面上に赤い褐色、内面に赤い褐色。0.5mm以下の長石少量含む。		1052
図151 5次調査出土遺物						
出土地点 遺構・層位 地区	種別	器種	部位		調査・その他特徴	実測番号
1 SP6 5-E	須恵器	环身	天井部	外表面灰白色。内面灰白色。1mm以下の長石少量含む。		1015
2 SP6 5-E	土師器	鉢	口縁	内外面褐色。1mm以下の長石・石英含む。		1016
3 SP6 5-E	土師器	鉢	口縁	外表面灰白色。内面ナメ。内外面褐色。1~2mmの長石・雲母少量含む。		1017
4 SC14 5-E	石器	磨石		砂岩。		1002
5 SC14 5-E	土師器	壺	全形	内面ナメ。内外面淡黄色。1mm以下の長石少量含む。		1001
6 SC16-17 5-E	須恵器	环身	口縁	外表面灰白色。内面ナメ。内外面褐色。1~2mmの長石少量含む。		1004
7 SC16-17 5-E	須恵器	环身	口縁	外表面灰白色。内面ナメ。内外面褐色。1~2mmの長石少量含む。		1003
8 SC16-17 5-E	須恵器	横瓶	肩部	外表面カキメ。内面青苔藻文後ナメ。外面上に赤い褐色、内面灰褐色。		1005
9 SC16-17 5-E	土師器	壺	口縁	外表面灰白色。内面に赤い褐色。1~2mmの長石・石英・雲母少量含む。		1006
10 SC17-18-19 5-E	須恵器	环身	天井部	外表面灰白色。内面灰白色。内面灰白色。1~2mmの長石少量含む。		1009
11 SC17-18 5-E	須恵器	环身	受部	外表面灰白色。内面灰白色。内面灰褐色。1~2mmの長石少量含む。		1007
12 SC17-18-19 5-E	須恵器	环身	口縁	外表面灰白色。内面灰白色。内面灰褐色。1~2mmの長石少量含む。		1008
13 SC17-18-19 5-E	須恵器	壺	底部	外表面灰白色。内面灰白色。内面灰褐色。1~2mmの長石少量含む。罐の可能性あり。		1010
14 SC17-18-19 5-E	土師器	壺	口縁	内面ナメ。外面上に赤い褐色、内面褐色。1~3mmの長石・石英多く含む。		1011
15 SC17-18-19 5-E	土師器	壺	口縁	内面ナメ。内面に赤い褐色、内面褐色。1~2mmの長石・石英少量含む。		1012
16 SC17-18-19 5-E	土師器	壺	口縁	内面ナメ。内面に赤い褐色、内面褐色。1~2mmの長石・石英少量含む。		1013
17 SC17-18-19 5-E	石器	素材		結晶片岩。		1014
18 SP2 5-B	土製品	輪羽口	上半部	外面上に赤い褐色。底面・内面に赤い褐色、底面部赤褐色。1~3mmの長石・石英多く含む。		1018